

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第145集

坂戸市

いな り まえ
稲荷前遺跡(B・C区)

住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

— VIII —

(第1分冊)

1994

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



稲荷前遺跡全景（南より）



C区方形周溝墓群（北より）



B区第5号方形周溝墓（北より）



C区第1号土墳墓鉄剣出土状況



C区第1号方形周溝墓出土遺物



C区第5号方形周溝墓出土遺物



C区第70号住居跡出土遺物



C区第38号住居跡出土遺物

序

埼玉県の中央部に位置する坂戸市は、近年首都圏の一角を担い急速な都市化が進み、かつて広がっていた田園風景は一変しつつあります。住宅・都市整備公団は首都圏の住宅不足に対応するため、坂戸市入西地区に大規模な土地区画整理事業を実施し、住宅地の供給を図ることになりました。

坂戸市には多くの遺跡が残されています。県指定史跡の雷電塚古墳、古墳時代後期の苦林古墳群、和同開珎が出土した若葉台遺跡、県内でも最古の寺院の一つである勝呂庵寺などはその代表的なもので、当地が古代から栄えていたことを教えてくれます。

事業地内では古墳時代から奈良・平安時代、中世を中心とした11遺跡が発見されました。事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて関係機関による協議が重ねられた結果、当事業団が発掘調査を実施し、その記録を保存することになりました。

稲荷前遺跡はこれらの遺跡の一つで、主に古墳時代前期の方形周溝墓群と古墳時代後期から平安時代に至る集落からなる複合遺跡です。古墳時代前期の方形周溝墓は35基発見され、当時の人々がどのように古墳文化を受容したかを知る手がかりとなるものと思われまふ。また、古墳時代から平安時代の住居跡は300軒を越し、当地の中核的な集落であったことをうかがわせます。

豊富な出土遺物の中には古墳時代の鉄剣、特異な瓦当文様の小形軒丸瓦、「多磨郡男川」と記された墨書土器など遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。本書は稲荷前遺跡のうち、B区とC区の成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また、教育・普及の資料として広く活用していただければ幸いです。

刊行にあたりまして、発掘調査における調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで多大な御指導、御協力を賜りました住宅・都市整備公団、同埼玉西宅地開発事務所、坂戸市教育委員会並びに地元関係者に厚くお礼申し上げます。

平成6年10月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例 言

1. 本書は埼玉県坂戸市大字竹之内字稲荷前130他に所在する稲荷前遺跡のうちB・C区に関する発掘調査報告書である。

文化庁指示通知は昭和61年8月27日付委保第5の988号、昭和62年6月18日付委保第5の801号と昭和63年7月7日付委保第5の1054号である。

2. 発掘調査は住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業に伴う事前調査である。埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整のもと、住宅・都市整備公団の委託を受けた財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

3. 稲荷前遺跡の発掘調査は昭和61年4月1日から平成元年3月31日まで実施した。報告書作成事業は平成4年4月1日から平成6年3月31日まで実施した。発掘調査及び整理・報告書刊行事業の組織は2ページに記した。

4. 本書の執筆及び編集は資料部資料整理第1課の富田和夫が行ない、第1章を文化財保護課、第IV章6-1(1)を村田章人、第VI章1-(3)と鉄剣の実測を瀧瀬芳之が分担した。土器実測の一部は山崎えり子の協力を得た。

5. B・C区に関する図版作成、写真撮影は下記のものを行った。

図版作成及び遺物撮影 富田

発掘調査における写真撮影 村田健二・小野義信・中村倉司・昼間孝志・細田 勝・大谷 徹

6. 本書に掲載した資料は、平成6年度以降埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

7. 自然科学分析及び巻頭集合写真撮影については下記へ委託した。

土器胎土分析 第四紀地質研究所

巻頭土器集合写真撮影 小川忠博・折原基久

8. 入西地区土地区画整理事業関係の既刊の報告書は下記のとおりである。

【金井遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第86集 1989

【広面遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集 1990

【塚の腰遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第101集 1991

【稲荷前遺跡(A区)】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第120集 1992

【桑原遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第121集 1992

【中耕遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集 1993

【足洗遺跡】 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第136集 1994

9. 本書の作成に際し、下記の方々から御教示・御協力を賜った。(敬称略)

伊藤研志 加藤恭朗 金井塚 厚志 北堀彰男 恋河内昭彦 斉藤 稔 坂井秀弥 佐藤正知

澤出見越 篠崎 潔 鈴木徳雄 鳥羽政之 柳楽 理 早川由利子 平田重之 渡辺 一

凡 例

1. 本書における挿図の指示は次のとおりである。

・ X、Yによる座標表示は国家標準直角座標第IX系に基づく座標値を示し、方位は全て座標北を表わす。

・ 挿図の縮尺は、住居跡1/60、カマド1/30、掘立柱建物跡1/60、方形周溝基1/160、溝跡土層図1/80、井戸跡1/60、土壌1/80、土器1/4、石製品1/3、鉄製品1/3を原則としたが例外もある。

・ 全測図等に示す遺構表記の略号は以下のとおりである。S J…竪穴住居跡、S B…掘立柱建物跡、S R…方形周溝基 SE…井戸跡、S K…土壌、S D…溝跡、S T…墓跡 S A…柱穴列、S X…その他（竪穴状遺構、円形周溝状遺構他）

・ 遺構図中に示したドットは遺物の出土位置及び接合関係を示し、ナンバーは遺物実測図のそれと一致する。

・ 土器実測図において復元実測を行なったものは中心線を一点鎖線、調整技法の変換点は実線で、器形の変換点は破線で表現した。器種毎の主な表現方法は下記のとおりである。

須恵器 断面黒塗り。図外に示した細線はヘラケズリの範囲を、図内の矢印はヘラケズリにおける工具の移動方向を示す。

土師器 断面白抜き。図中の矢印はヘラケズリの方向を示す。彩色されたものはその範囲に網をかけて示した。

施釉陶器 断面網かけ。施釉範囲は破線で示した。

中世陶磁器類 断面白抜き。施釉範囲に網をかけて示した。



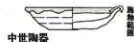
土師器 ヘラケズリ



須恵器 網かけヘラケズリ



施釉陶器



中世陶磁器

2. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・ 法量の()内の数値は推定値であり、単位はcmを示す。なお器高は破片の場合残存高を示す。

・ 胎土は土器に含まれる含有鉱物を以下の記号で示した。A石英、B白色粒子、C白色針状物質、D長石、E角閃石、F赤色粒子、G黑色粒子、H雲母、I片岩、J砂粒。

・ 焼成は4ランクに分けた。A良好、B普通、Cやや不良、D不良である。

・ 色調は『新版標準土色帖』（農林省水産技術会議事務局監修1967）に照らし最も近い色相を記した。彩度や明度は無視したためかなり幅のあるものである。

・ 残存率は5%刻みで表わしたが、破片の場合、図で示した残存部位に対するもので必ずしも全体に占める残存率を表示していない。

・ 出土位置・その他に記載した数値は註記番号である。多数の破片が接合した場合一部を割愛した。()内の数値は住居の場合は床面を、溝・土壌の場合は底面を基準とした遺物の高さである。住居柱穴内のものは(-*cm)と表記した。

目 次

坂戸市

稲荷前遺跡(B・C区)

序

例言

凡例

(第1分冊)

I	調査の概要	1
1	発掘調査に至る経過	1
2	発掘調査・報告書刊行事業の組織	2
3	発掘調査・報告書作成の経過	2
4	発掘調査の方法	3
II	立地と環境	4
III	遺跡の概観	11
IV	B区の遺構と遺物	16
1	B区の概観	16
2	古墳時代前期の遺構と遺物	18
(1)	住居跡	18
(2)	方形周溝墓	26
(3)	土壌	55
3	古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物	56
(1)	住居跡	56
(2)	掘立柱建物跡	233
(3)	井戸跡	245
(4)	土壌	256
(5)	包含層	263
4	中・近世の遺構と遺物	265
(1)	掘立柱建物跡	265
(2)	井戸跡	272
(3)	土壌	278
(4)	溝跡	281
(5)	火葬墓	287
5	時期不明の遺構	289
(1)	井戸跡	289
(2)	土壌	290
(3)	土壌群	290
6	グリッド・表採遺物	292
(1)	縄文土器	292
(2)	弥生土器	292
(3)	グリッド出土土器	294
(4)	表採遺物	296

(第2分冊)

V	C区の遺構と遺物	301
1	C区の概観	301
2	古墳時代前期の遺構と遺物	306
(1)	住居跡	307
(2)	方形周溝墓	337
(3)	土壇	388
(4)	土壇墓	389
3	古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物	391
(1)	住居跡	392
(2)	掘立柱建物跡	534
(3)	竪穴状遺構	544
(4)	井戸跡	546
(5)	土壇	556
(6)	円形周溝状遺構	564
4	中・近世の遺構と遺物	566
(1)	掘立柱建物跡	567
(2)	竪穴状遺構	579
(3)	井戸跡	580
(4)	土壇	599
(5)	溝跡	601
(6)	敷石遺構	615
(7)	火葬墓	617
5	時期不明の遺構	618
(1)	土壇	618
(2)	井戸跡	618
6	ビット出土遺物	622
7	グリッド・表採遺物ほか	624
(1)	グリッド出土遺物	624
(2)	表採遺物	626
(3)	A区補遺	627

(第3分冊)

VI	調査のまとめ	635
1	古墳時代前期	635
(1)	出土土器について	635
(2)	遺構について	648
(3)	B区第1号土壇墓出土鉄剣について	651
2	古墳時代後期～平安時代	659
(1)	出土土器について	659
(2)	小形瓦について	668
(3)	集落変遷について	671
(4)	胎土分析結果から	680
(附篇)		
1	稲荷前遺跡出土土器胎土分析(土師器)鑑定報告	690
2	稲荷前遺跡出土土器胎土分析(須恵器)鑑定報告	701

挿 図 目 次

(第1分冊)

第1図	グリッドの名称と分割	3	第47図	B区古墳後期～平安時代の遺構配置図	56
第2図	埼玉県の地形区分	4	第48図	B区第5号住居跡	57
第3図	事業地内の遺跡分布	5	第49図	B区第5号住居跡カマド	58
第4図	地形断面模式図	6	第50図	B区第5号住居跡出土遺物	59
第5図	周辺の遺跡分布	7	第51図	B区第6号住居跡出土遺物	60
第6図	稲荷前遺跡全測図(1/1200)	12・13	第52図	B区第6・7号住居跡	61
第7図	B区全測図(1/600)	16・17	第53図	B区第7号住居跡出土遺物	62
第8図	B区古墳時代前期の遺構配置図	18	第54図	B区第8号住居跡出土遺物	62
第9図	B区第1号住居跡	19	第55図	B区第8号住居跡	63
第10図	B区第1号住居跡出土遺物(1)	20	第56図	B区第9号住居跡	64
第11図	B区第1号住居跡出土遺物(2)	21	第57図	B区第9号住居跡出土遺物	65
第12図	B区第1号住居跡出土遺物(3)	22	第58図	B区第10号住居跡	66
第13図	B区第2号住居跡	23	第59図	B区第10号住居跡出土遺物	66
第14図	B区第2号住居跡出土遺物	24	第60図	B区第11号住居跡炭化材出土状況	67
第15図	B区第3号住居跡出土遺物	24	第61図	B区第11号住居跡	68
第16図	B区第3・4号住居跡	25	第62図	B区第11号住居跡出土遺物	68
第17図	B区第1号方形周溝墓出土遺物	27	第63図	B区第12号住居跡	69
第18図	B区第1号方形周溝墓	28	第64図	B区第12号住居跡出土遺物	69
第19図	B区第2号方形周溝墓出土遺物	29	第65図	B区第13・14号住居跡	70
第20図	B区第2号方形周溝墓	30	第66図	B区第13号住居跡出土遺物	71
第21図	B区第3号方形周溝墓	31	第67図	B区第14号住居跡出土遺物	72
第22図	B区第3号方形周溝墓出土遺物	32	第68図	B区第15号住居跡	73
第23図	B区第4号方形周溝墓出土遺物	33	第69図	B区第15号住居跡出土遺物	74
第24図	B区第4号方形周溝墓	34・35	第70図	B区第16号住居跡	74
第25図	B区第5号方形周溝墓(1)	36	第71図	B区第16号住居跡出土遺物	75
第26図	B区第5号方形周溝墓(2)	37	第72図	B区第17号住居跡	76
第27図	B区第5号方形周溝墓出土遺物(1)	39	第73図	B区第17号住居跡出土遺物	77
第28図	B区第5号方形周溝墓出土遺物(2)	40	第74図	B区第18・19号住居跡	78
第29図	B区第3号方形周溝墓	41	第75図	B区第18号住居跡出土遺物	79
第30図	B区第7号方形周溝墓	42	第76図	B区第19号住居跡出土遺物	80
第31図	B区第7号方形周溝墓出土遺物	43	第77図	B区第20号住居跡出土遺物	81
第32図	B区第8号方形周溝墓	44	第78図	B区第20号住居跡	82
第33図	B区第8号方形周溝墓出土遺物	45	第79図	B区第21号住居跡	83
第34図	B区第9号方形周溝墓	46	第80図	B区第21号住居跡出土遺物	84
第35図	B区第9号方形周溝墓出土遺物	48	第81図	B区第22号住居跡・カマド	85
第36図	B区第10号方形周溝墓	49	第82図	B区第22号住居跡出土遺物	86
第37図	B区第10号方形周溝墓出土遺物	50	第83図	B区第23・24号住居跡	87
第38図	B区第11号方形周溝墓	50	第84図	B区第25号住居跡	88
第39図	B区第11号方形周溝墓出土遺物	51	第85図	B区第25号住居跡出土遺物	89
第40図	B区第12号方形周溝墓	51	第86図	B区第26号住居跡	89
第41図	B区第13号方形周溝墓・出土遺物	52	第87図	B区第26号住居跡出土遺物	90
第42図	B区第14号方形周溝墓	52	第88図	B区第27号住居跡	91
第43図	B区第15号方形周溝墓	53	第89図	B区第28号住居跡	91
第44図	B区第15号方形周溝墓出土遺物	54	第90図	B区第28号住居跡出土遺物	92
第45図	B区第16号方形周溝墓	55	第91図	B区第29号住居跡	93
第46図	B区第20・55号土壌・出土遺物	55	第92図	B区第29号住居跡出土遺物(1)	94

第93図	B区第29号住居跡出土遺物(2)	95	第142図	B区第56号住居跡出土遺物	151
第94図	B区第30号住居跡	96	第143図	B区第57・58号住居跡	153
第95図	B区第30号住居跡出土遺物	96	第144図	B区第57・58号住居跡カマド	154
第96図	B区第31号住居跡	97	第145図	B区第57号住居跡出土遺物	155
第97図	B区第31号住居跡出土遺物	98	第146図	B区第58号住居跡出土遺物	157
第98図	B区第32・33号住居跡	99	第147図	B区第59号住居跡	158
第99図	B区第32・33号住居跡出土遺物	100	第148図	B区第59号住居跡カマド	159
第100図	B区第34号住居跡	102	第149図	B区第59~61号住居跡遺物分布図	160
第101図	B区第34号住居跡出土遺物	103	第150図	B区第59号住居跡出土遺物(1)	161
第102図	B区第35・36号住居跡	104	第151図	B区第59号住居跡出土遺物(2)	162
第103図	B区第37号住居跡	105	第152図	B区第60・61号住居跡(1)	164
第104図	B区第37号住居跡出土遺物	106	第153図	B区第60・61号住居跡・カマド(2)	165
第105図	B区第38号住居跡	106	第154図	B区第60号住居跡出土遺物	167
第106図	B区第38号住居跡出土遺物	107	第155図	B区第61号住居跡出土遺物	169
第107図	B区第39号住居跡	108	第156図	B区第59~61号住居跡出土遺物	170
第108図	B区第39号住居跡出土遺物	109	第157図	B区第62号住居跡(1)	172
第109図	B区第40号住居跡	111	第158図	B区第62号住居跡・カマド(2)	173
第110図	B区第40号住居跡出土遺物	113	第159図	B区第62号住居跡出土遺物(1)	174
第111図	B区第41号住居跡	115	第160図	B区第62号住居跡出土遺物(2)	175
第112図	B区第41号住居跡出土遺物	116	第161図	B区第63号住居跡・カマド	177
第113図	B区第42号住居跡	117	第162図	B区第63号住居跡出土遺物	178
第114図	B区第42号住居跡出土遺物	118	第163図	B区第64号住居跡	180
第115図	B区第43号住居跡	119	第164図	B区第64号住居跡出土遺物	181
第116図	B区第43号住居跡出土遺物	119	第165図	B区第65・66号住居跡(1)	182
第117図	B区第44号住居跡	121	第166図	B区第65・66号住居跡(2)	183
第118図	B区第44号住居跡出土遺物	121	第167図	B区第65号住居跡出土遺物	184
第119図	B区第45号住居跡	122	第168図	B区第66号住居跡出土遺物	185
第120図	B区第45号住居跡カマド	123	第169図	B区第67号住居跡	186
第121図	B区第45号住居跡出土遺物	124	第170図	B区第67号住居跡出土遺物	187
第122図	B区第46号住居跡	126	第171図	B区第68・69号住居跡	188
第123図	B区第46号住居跡出土遺物	127	第172図	B区第68号住居跡出土遺物	189
第124図	B区第47号住居跡	129	第173図	B区第69号住居跡出土遺物	190
第125図	B区第47号住居跡出土遺物	129	第174図	B区第70号住居跡	191
第126図	B区第48号住居跡	130	第175図	B区第70号住居跡カマド	192
第127図	B区第48号住居跡出土遺物	131	第176図	B区第70号住居跡出土遺物	193
第128図	B区第49号住居跡	133	第177図	B区第71号住居跡・カマド	195
第129図	B区第49号住居跡出土遺物	134	第178図	B区第71号住居跡出土遺物	196
第130図	B区第50号住居跡	136	第179図	B区第72号住居跡	197
第131図	B区第50号住居跡出土遺物	137	第180図	B区第72号住居跡出土遺物	197
第132図	B区第51号住居跡	138	第181図	B区第73号住居跡	198
第133図	B区第51号住居跡出土遺物	138	第182図	B区第73号住居跡出土遺物	199
第134図	B区第52号住居跡	139	第183図	B区第74号住居跡・カマド	200
第135図	B区第52号住居跡出土遺物(1)	140	第184図	B区第74号住居跡出土遺物	201
第136図	B区第52号住居跡出土遺物(2)	141	第185図	B区第75号住居跡	202
第137図	B区第53号住居跡	143	第186図	B区第75号住居跡出土遺物	204
第138図	B区第53号住居跡出土遺物	144	第187図	B区第76号住居跡	205
第139図	B区第54・55号住居跡	146	第188図	B区第76号住居跡出土遺物(1)	206
第140図	B区第54号住居跡出土遺物	148	第189図	B区第76号住居跡出土遺物(2)	207
第141図	B区第56号住居跡	150	第190図	B区第77号住居跡	209

第191回	B区第77号住居跡出土遺物	210
第192回	B区第78・79号住居跡	212
第193回	B区第78・79号住居跡カマド	213
第194回	B区第78号住居跡出土遺物	214
第195回	B区第79号住居跡出土遺物	215
第196回	B区第80・81号住居跡	217
第197回	B区第80・81号住居跡カマド	218
第198回	B区第80号住居跡出土遺物	219
第199回	B区第81号住居跡出土遺物	220
第200回	B区第82号住居跡	221
第201回	B区第83・84号住居跡	222
第202回	B区第85号住居跡・カマド	224
第203回	B区第85号住居跡出土遺物(1)	225
第204回	B区第85号住居跡出土遺物(2)	226
第205回	B区第86・87号住居跡	227
第206回	B区第86・87号住居跡出土遺物	228
第207回	B区第88号住居跡	230
第208回	B区第88号住居跡出土遺物	231
第209回	B区第89号住居跡	232
第210回	B区第1号掘立柱建物跡	233
第211回	B区第2号掘立柱建物跡	234・235
第212回	B区第3号掘立柱建物跡(1)	236
第213回	B区第3号掘立柱建物跡(2)	237
第214回	B区第4号掘立柱建物跡	238
第215回	B区第5号掘立柱建物跡	239
第216回	B区第6号掘立柱建物跡	241
第217回	B区第7号掘立柱建物跡	242
第218回	B区第1・3・6・9号掘立柱建物跡遺物	243
第219回	B区第8号掘立柱建物跡	244
第220回	B区第9号掘立柱建物跡	245
第221回	B区第1号井戸跡	246
第222回	B区第1号井戸跡出土遺物(1)	247
第223回	B区第1号井戸跡出土遺物(2)	248
第224回	B区第1号井戸跡出土遺物(3)	249
第225回	B区第2号井戸跡	250
第226回	B区第2号井戸跡出土遺物	251
第227回	B区第3号井戸跡	252
第228回	B区第3号井戸跡出土遺物(1)	253
第229回	B区第3号井戸跡出土遺物(2)	254
第230回	B区第4号井戸跡・出土遺物	255
第231回	B区第5号井戸跡・出土遺物	256
第232回	B区第61号土壌	257
第233回	B区第61号土壌出土遺物	258
第234回	B区土壌(1)	259
第235回	B区土壌(2)	260
第236回	B区土壌出土遺物(1)	261
第237回	B区土壌出土遺物(2)	262
第238回	B区包含層出土遺物	263
第239回	B区中・近世の遺構配置図	265

第240回	B区第10号掘立柱建物跡	266
第241回	B区第11号掘立柱建物跡	267
第242回	B区第12号掘立柱建物跡	268
第243回	B区第13号掘立柱建物跡	269
第244回	B区第14号掘立柱建物跡	270
第245回	B区第15号掘立柱建物跡	271
第246回	B区第12・13号掘立柱建物跡出土遺物	271
第247回	B区第6号井戸跡	272
第248回	B区第6号井戸跡出土遺物	273
第249回	B区第7号井戸跡・出土遺物	274
第250回	B区第8号井戸跡・出土遺物	275
第251回	B区第9号井戸跡	275
第252回	B区第9号井戸跡出土遺物	276
第253回	B区第10号井戸跡・出土遺物	276
第254回	B区第11号井戸跡・出土遺物	277
第255回	B区第12号井戸跡・出土遺物	278
第256回	B区中・近世の土壌	279
第257回	B区中・近世の土壌出土遺物	280
第258回	B区中・近世の溝跡(1)	282
第259回	B区中・近世の溝跡(2)	283
第260回	B区中・近世の溝跡(3)	284
第261回	B区中・近世の溝跡土層図	285
第262回	B区中・近世の溝跡出土遺物(1)	286
第263回	B区中・近世の溝跡出土遺物(2)	287
第264回	B区第1・2号火葬墓	288
第265回	B区第1・2号火葬墓出土遺物	288
第266回	B区第13~17号井戸跡	289
第267回	B区時期不明の土壌	291
第268回	B区出土縄文土器	293
第269回	B区出土弥生土器	294
第270回	B区グリッド出土遺物(1)	295
第271回	B区グリッド出土遺物(2)	296
第272回	B区表探遺物	297

(第2分冊)

第273回	C区全測図(1/600)	303-304
第274回	C区古墳時代前期の遺構配置図	306
第275回	C区第1号住居跡	307
第276回	C区第1号住居跡出土遺物	307
第277回	C区第2号住居跡	308
第278回	C区第2号住居跡出土遺物	308
第279回	C区第3号住居跡	309
第280回	C区第3号住居跡出土遺物	310
第281回	C区第4・5号住居跡	311
第282回	C区第4号住居跡出土遺物	312
第283回	C区第6号住居跡(1)	314
第284回	C区第6号住居跡(2)	315
第285回	C区第6号住居跡出土遺物(1)	316
第286回	C区第6号住居跡出土遺物(2)	317

第287図	C区第7号住居跡	318	第336図	C区第12号方形周溝墓出土遺物	375
第288図	C区第7号住居跡出土遺物	319	第337図	C区第13号方形周溝墓	376
第289図	C区第8号住居跡	320	第338図	C区第14号方形周溝墓	377
第290図	C区第8号住居跡出土遺物	321	第339図	C区第14号方形周溝墓出土遺物	377
第291図	C区第9号住居跡	322	第340図	C区第15号方形周溝墓・出土遺物	378
第292図	C区第9号住居跡出土遺物	323	第341図	C区第16号方形周溝墓	379
第293図	C区第10号住居跡	325	第342図	C区第16号方形周溝墓出土遺物	379
第294図	C区第10号住居跡出土遺物	326	第343図	C区第17号方形周溝墓	380-381
第295図	C区第11号住居跡	327	第344図	C区第17号方形周溝墓出土遺物(1)	383
第296図	C区第11号住居跡出土遺物	328	第345図	C区第17号方形周溝墓出土遺物(2)	384
第297図	C区第12号住居跡出土遺物	329	第346図	C区第18号方形周溝墓	386
第298図	C区第12号住居跡	330-331	第347図	C区第18号方形周溝墓出土遺物	386
第299図	C区第13号住居跡	332	第348図	C区第19号方形周溝墓	387
第300図	C区第13号住居跡出土遺物	333	第349図	C区第19号方形周溝墓出土遺物	388
第301図	C区第14号住居跡	334	第350図	C区第20・21号方土壇	389
第302図	C区第14号住居跡出土遺物	334	第351図	C区第1号土壇墓	389
第303図	C区第15号住居跡	335	第352図	C区第1号土壇墓出土遺物	390
第304図	C区第15号住居跡出土遺物	336	第353図	C区古墳後期～平安時代の遺構配置図	391
第305図	C区第1号方形周溝墓	338-339	第354図	C区第16号住居跡	392
第306図	C区第1号方形周溝墓出土遺物(1)	340	第355図	C区第16号住居跡出土遺物	392
第307図	C区第1号方形周溝墓出土遺物(2)	341	第356図	C区第17号住居跡	393
第308図	C区第1号方形周溝墓出土遺物(3)	342	第357図	C区第17号住居跡出土遺物	393
第309図	C区第1号方形周溝墓出土遺物(4)	343	第358図	C区第18号住居跡	394
第310図	C区第2号方形周溝墓	344	第359図	C区第18号住居跡出土遺物	395
第311図	C区第2号方形周溝墓出土遺物	345	第360図	C区第19号住居跡	396
第312図	C区第3号方形周溝墓	346	第361図	C区第19号住居跡出土遺物	397
第313図	C区第3号方形周溝墓出土遺物	347	第362図	C区第20号住居跡	398
第314図	C区第4号方形周溝墓	347	第363図	C区第20号住居跡出土遺物	399
第315図	C区第4号方形周溝墓出土遺物	348	第364図	C区第21号住居跡・カマド	401
第316図	C区第5号方形周溝墓	350	第365図	C区第21号住居跡出土遺物	402
第317図	C区第5号方形周溝墓出土遺物(1)	351	第366図	C区第22号住居跡	403
第318図	C区第5号方形周溝墓出土遺物(2)	352	第367図	C区第23号住居跡	404
第319図	C区第5号方形周溝墓出土遺物(3)	353	第368図	C区第23号住居跡カマド	405
第320図	C区第6号方形周溝墓	354	第369図	C区第23号住居跡出土遺物	406
第321図	C区第6号方形周溝墓出土遺物	355	第370図	C区第24号住居跡	407
第322図	C区第7号方形周溝墓	357	第371図	C区第24号住居跡出土遺物	408
第323図	C区第7号方形周溝墓出土遺物(1)	358	第372図	C区第25号住居跡	409
第324図	C区第7号方形周溝墓出土遺物(2)	359	第373図	C区第25号住居跡出土遺物	410
第325図	C区第8号方形周溝墓	361	第374図	C区第26号住居跡出土遺物	410
第326図	C区第8号方形周溝墓出土遺物	362	第375図	C区第26号住居跡	411
第327図	C区第9号方形周溝墓	363	第376図	C区第27号住居跡出土遺物	412
第328図	C区第9号方形周溝墓出土遺物	364	第377図	C区第27号住居跡	412
第329図	C区第10号方形周溝墓	366-367	第378図	C区第28号住居跡	413
第330図	C区第10号方形周溝墓出土遺物(1)	367	第379図	C区第29号住居跡	414
第331図	C区第10号方形周溝墓出土遺物(2)	368	第380図	C区第29号住居跡出土遺物	414
第332図	C区第11号方形周溝墓	370-371	第381図	C区第30号住居跡・カマド	415
第333図	C区第11号方形周溝墓出土遺物(1)	371	第382図	C区第30号住居跡出土遺物	416
第334図	C区第11号方形周溝墓出土遺物(2)	372	第383図	C区第31号住居跡	417
第335図	C区第12号方形周溝墓	374	第384図	C区第31号住居跡出土遺物	418

第385図	C区第32号住居跡出土遺物	418
第386図	C区第32号住居跡	419
第387図	C区第33号住居跡	420
第388図	C区第33号住居跡出土遺物	420
第389図	C区第34号住居跡・カマド	422
第390図	C区第34号住居跡出土遺物	423
第391図	C区第35号住居跡	424
第392図	C区第35号住居跡出土遺物	425
第393図	C区第36号住居跡	426
第394図	C区第36号住居跡出土遺物	427
第395図	C区第37・38号住居跡(1)	428
第396図	C区第37・38号住居跡(2)・カマド	429
第397図	C区第37・38号住居跡出土遺物	430
第398図	C区第38号住居跡カマド	431
第399図	C区第38号住居跡出土遺物(1)	433
第400図	C区第38号住居跡出土遺物(2)	434
第401図	C区第38号住居跡出土遺物(3)	435
第402図	C区第39号住居跡・カマド	437
第403図	C区第39号住居跡出土遺物	438
第404図	C区第40号住居跡	439
第405図	C区第40号住居跡出土遺物	440
第406図	C区第41号住居跡	441
第407図	C区第41号住居跡出土遺物	442
第408図	C区第42号住居跡	443
第409図	C区第43号住居跡	444
第410図	C区第43号住居跡出土遺物	444
第411図	C区第44号住居跡・カマド	445
第412図	C区第44号住居跡出土遺物	446
第413図	C区第45号住居跡・カマド	447
第414図	C区第45号住居跡出土遺物	448
第415図	C区第46号住居跡	449
第416図	C区第46号住居跡出土遺物	449
第417図	C区第47号住居跡	450
第418図	C区第47号住居跡出土遺物	451
第419図	C区第48号住居跡出土遺物	451
第420図	C区第48号住居跡	452
第421図	C区第49号住居跡・カマド	453
第422図	C区第49号住居跡出土遺物	455
第423図	C区第50号住居跡	456
第424図	C区第50号住居跡出土遺物	457
第425図	C区第51号住居跡・カマド	458
第426図	C区第51号住居跡出土遺物	459
第427図	C区第52号住居跡	460
第428図	C区第52号住居跡出土遺物	461
第429図	C区第53号住居跡	462
第430図	C区第53号住居跡出土遺物	463
第431図	C区第54号住居跡・カマド	464
第432図	C区第54号住居跡出土遺物	464
第433図	C区第55号住居跡・カマド	465

第434図	C区第55号住居跡出土遺物	466
第435図	C区第56号住居跡・出土遺物	467
第436図	C区第57・58号住居跡	468
第437図	C区第57・58号住居跡カマド	469
第438図	C区第57号住居跡出土遺物	470
第439図	C区第58号住居跡出土遺物	471
第440図	C区第59号住居跡・カマド	472
第441図	C区第59号住居跡出土遺物	473
第442図	C区第60号住居跡	473
第443図	C区第60号住居跡出土遺物	474
第444図	C区第61号住居跡・カマド	475
第445図	C区第61号住居跡出土遺物	476
第446図	C区第62号住居跡	477
第447図	C区第62号住居跡出土遺物	478
第448図	C区第63・64号住居跡	479
第449図	C区第63号住居跡出土遺物	479
第450図	C区第63・64号住居跡カマド	480
第451図	C区第64号住居跡出土遺物	482
第452図	C区第65号住居跡出土遺物	483
第453図	C区第65号住居跡・カマド	484
第454図	C区第66号住居跡	486
第455図	C区第66号住居跡出土遺物(1)	487
第456図	C区第66号住居跡出土遺物(2)	488
第457図	C区第67号住居跡	489
第458図	C区第67号住居跡出土遺物	490
第459図	C区第68号住居跡	491
第460図	C区第68号住居跡カマド	492
第461図	C区第68号住居跡出土遺物	492
第462図	C区第69・70号住居跡	494
第463図	C区第70号住居跡出土遺物(1)	495
第464図	C区第70号住居跡出土遺物(2)	496
第465図	C区第71号住居跡(1)	498
第466図	C区第71号住居跡(2)・カマド	499
第467図	C区第71号住居跡出土遺物(1)	500
第468図	C区第71号住居跡出土遺物(2)	501
第469図	C区第72号住居跡・カマド	503
第470図	C区第72号住居跡遺物分布図	504
第471図	C区第72号住居跡出土遺物(1)	505
第472図	C区第72号住居跡出土遺物(2)	506
第473図	C区第72号住居跡出土遺物(3)	507
第474図	C区第73号住居跡	508
第475図	C区第73号住居跡出土遺物	509
第476図	C区第74号住居跡・カマド	510
第477図	C区第74号住居跡出土遺物	511
第478図	C区第75号住居跡・カマド	512
第479図	C区第75号住居跡出土遺物	513
第480図	C区第76・77号住居跡	515
第481図	C区第76号住居跡出土遺物	516
第482図	C区第77号住居跡出土遺物	516

第483図	C区第78号住居跡・カマド	517	第532図	C区第1号円形周溝状遺構	564
第484図	C区第78号住居跡出土遺物	518	第533図	C区第2号円形周溝状遺構	565
第485図	C区第79号住居跡	519	第534図	C区中・近世の遺構配置図	566
第486図	C区第79号住居跡出土遺物	520	第535図	C区第8号掘立柱建物跡	568-569
第487図	C区第80号住居跡	521	第536図	C区第9号掘立柱建物跡	570
第488図	C区第80号住居跡出土遺物	522	第537図	C区第10号掘立柱建物跡	571
第489図	C区第81号住居跡・カマド	523	第538図	C区第11号掘立柱建物跡	572
第490図	C区第81号住居跡出土遺物	524	第539図	C区第12号掘立柱建物跡	573
第491図	C区第82号住居跡	525	第540図	C区第13号掘立柱建物跡	574
第492図	C区第82号住居跡出土遺物	525	第541図	C区第14号掘立柱建物跡	575
第493図	C区第83号住居跡	526	第542図	C区第15号掘立柱建物跡	576
第494図	C区第83号住居跡出土遺物	526	第543図	C区第16号掘立柱建物跡	577
第495図	C区第84号住居跡	527	第544図	C区第17号掘立柱建物跡	578
第496図	C区第84号住居跡出土遺物	528	第545図	C区第4号竪穴状遺構	579
第497図	C区第85号住居跡	529	第546図	C区第4号竪穴状遺構出土遺物	580
第498図	C区第85号住居跡出土遺物	531	第547図	C区第5号竪穴状遺構	580
第499図	C区第86号住居跡・カマド	532	第548図	C区第15号井戸跡・出土遺物	581
第500図	C区第86号住居跡出土遺物	533	第549図	C区第16号井戸跡	582
第501図	C区第87号住居跡	533	第550図	C区第16号井戸跡出土遺物	583
第502図	C区第87号住居跡出土遺物	534	第551図	C区第17号井戸跡	584
第503図	C区第1号掘立柱建物跡	535	第552図	C区第17号井戸跡出土遺物(1)	585
第504図	C区第2号掘立柱建物跡	536	第553図	C区第17号井戸跡出土遺物(2)	586
第505図	C区第3号掘立柱建物跡	537	第554図	C区第18号井戸跡	586
第506図	C区第4号掘立柱建物跡	539	第555図	C区第18号井戸跡出土遺物	587
第507図	C区第5号掘立柱建物跡	540	第556図	C区第19号井戸跡	588
第508図	C区第1～7号掘立柱建物跡出土遺物	541	第557図	C区第19号井戸跡出土遺物(1)	589
第509図	C区第6号掘立柱建物跡	542	第558図	C区第19号井戸跡出土遺物(2)	590
第510図	C区第7号掘立柱建物跡	543	第559図	C区第20号井戸跡・出土遺物	591
第511図	C区第号竪穴状遺構	544	第560図	C区第21号井戸跡・出土遺物	592
第512図	C区第2号竪穴状遺構	545	第561図	C区第22号井戸跡・出土遺物	593
第513図	C区第2号竪穴状遺構出土遺物	545	第562図	C区第23号井戸跡・出土遺物(1)	594
第514図	C区第3号竪穴状遺構	546	第563図	C区第23号井戸跡出土遺物(2)	595
第515図	C区第1号井戸跡・出土遺物	547	第564図	C区第24号井戸跡・出土遺物	596
第516図	C区第2号井戸跡・出土遺物	548	第565図	C区第25号井戸跡・出土遺物	597
第517図	C区第3号井戸跡・出土遺物	549	第566図	C区第26号井戸跡・出土遺物	598
第518図	C区第4号井戸跡・出土遺物	550	第567図	C区第27号井戸跡	599
第519図	C区第5号井戸跡・出土遺物	551	第568図	C区中・近世の土壌出土遺物	599
第520図	C区第6号井戸跡・出土遺物	552	第569図	C区中・近世の土壌(1)	600
第521図	C区第7号井戸跡・出土遺物	552	第570図	C区中・近世の土壌(2)	601
第522図	C区第8号井戸跡・出土遺物	553	第571図	C区中・近世の溝跡(1)	602
第523図	C区第9号井戸跡・出土遺物	553	第572図	C区中・近世の溝跡(2)	603
第524図	C区第10号井戸跡・出土遺物	554	第573図	C区中・近世の溝跡(3)	604
第525図	C区第11～14号井戸跡	555	第574図	C区中・近世の溝跡(4)	605
第526図	C区土壌(1)	557	第575図	C区第1～5・7号溝跡土層図	606
第527図	C区土壌(2)	558	第576図	C区第2号溝跡(部分)	606
第528図	C区土壌(3)	559	第577図	C区第6・8～11・17号溝跡土層図	607
第529図	C区土壌出土遺物(1)	560	第578図	C区第6・16号溝跡(部分)	608
第530図	C区土壌出土遺物(2)	561	第579図	C区第9号溝跡(部分)	609
第531図	C区土壌出土遺物(3)	562	第580図	C区第14・16号溝跡(部分)	610

第581図	C区第12~16・24号溝跡土層図	611
第582図	C区第19~23・25~29号溝跡土層図	611
第583図	C区第30号溝跡(部分)	612
第584図	C区第18・30・31号溝跡土層図	612
第585図	C区第中・近世の溝跡出土遺物(1)	613
第586図	C区第中・近世の溝跡出土遺物(2)	614
第587図	C区第1号敷石遺構	616
第588図	C区第1号敷石遺構出土遺物	616
第589図	C区第2号敷石遺構	617
第590図	C区第1・2号火葬墓	618
第591図	C区時期不明の土壌(1)	619
第592図	C区時期不明の土壌(2)	620
第593図	C区時期不明の土壌(3)	621
第594図	C区第28~32号井戸跡	622
第595図	C区ヒット出土遺物	623
第596図	C区グリッド出土遺物	625
第597図	C区表採遺物	627
第598図	A区出土遺物	628

(第3分冊)

第599図	土器分類図(1)	637
第600図	土器分類図(2)	638
第601図	土器分類図(3)	639
第602図	土器分類図(4)	641
第603図	住居跡の主軸・規模	648
第604図	周溝墓の規模	649
第605図	周溝墓の主軸	650
第606図	鉄剣及び復元図	652
第607図	剣の佩用	653
第608図	埼玉県出土の鉄剣	654
第609図	I~III期の土器群	660
第610図	IV・V期の土器群	661
第611図	V・VI期の土器群	663

第612図	VII~IX期の土器群	665
第613図	X~XV期の土器群	667
第614図	小型瓦の分布	669
第615図	B区I~IV期の集落	672
第616図	C区I~IV期の集落	673
第617図	B区V・VI期の集落	674
第618図	C区V・VI期の集落	675
第619図	B区VII~XI期の集落	676
第620図	C区VII~XI期の集落	677
第621図	B区XII~XIV期の集落	678
第622図	C区XII~XV期の集落	679
第623図	胎土分析資料(土師器)と分析値	682
第624図	胎土分析比較資料	683
第625図	胎土分析資料(須恵器)と分析値	686

表目次

第1表	B区遺構新旧対照表	298
第2表	B区土壌一覧表(1)	299
第3表	B区土壌一覧表(2)	300
第4表	C区遺構新旧対照表	630
第5表	C区土壌一覧表(1)	631
第6表	C区土壌一覧表(2)	632
第7表	C区土壌一覧表(3)	633
第8表	埼玉県内の鉄剣出土遺跡一覧表	652

付図目次

付図1	稲荷前遺跡全圖図(1/800)
付図2	稲荷前遺跡B区全圖図(1/400)
付図3	稲荷前遺跡C区全圖図(1/400)

写真図版目次

- | | | | |
|------|-------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------|
| 図版1 | 稲荷前遺跡遠景
稲荷前遺跡全景 | | B区第35・36号住居跡
B区第38号住居跡 |
| 図版2 | 稲荷前遺跡B・C区全景
稲荷前遺跡B区全景 | 図版18 | B区第39号住居跡
B区第40号住居跡 |
| 図版3 | 稲荷前遺跡C区全景
稲荷前遺跡C区全景 | | B区第40号住居跡遺物出土状態 |
| 図版4 | B区第1号住居跡
B区第1号住居跡遺物出土状態 | 図版19 | B区第39～41号住居跡
B区第41号住居跡 |
| | B区第2号住居跡 | | B区第42号住居跡 |
| 図版5 | B区第3号住居跡
B区第5号住居跡
B区第5号住居跡カマド | 図版20 | B区第43号住居跡
B区第44号住居跡
B区第45号住居跡 |
| 図版6 | B区第6号住居跡
B区第8号住居跡
B区第9号住居跡 | 図版21 | B区第45号住居跡カマド
B区第45号住居跡遺物出土状態
B区第45号住居跡遺物出土状態 |
| 図版7 | B区第10号住居跡
B区第11号住居跡
B区第11号住居跡カマド | 図版22 | B区第48号住居跡
B区第49号住居跡
B区第49号住居跡遺物出土状態 |
| 図版8 | B区第11号住居跡遺物出土状態
B区第13・14号住居跡
B区第15号住居跡 | 図版23 | B区第49号住居跡遺物出土状態
B区第50号住居跡
B区第52号住居跡 |
| 図版9 | B区第15号住居跡遺物出土状態
B区第15号住居跡遺物出土状態
B区第15号住居跡遺物出土状態 | 図版24 | B区第53号住居跡
B区第53号住居跡遺物出土状態
B区第54・58号住居跡 |
| 図版10 | B区第16号住居跡
B区第17号住居跡
B区第18・19号住居跡 | 図版25 | B区第54号住居跡
B区第54・55号住居跡
B区第57・58号住居跡 |
| 図版11 | B区第18号住居跡遺物出土状態
B区第19号住居跡カマド
B区第20号住居跡カマド | 図版26 | B区第57号住居跡カマド
B区第59・61号住居跡
B区第59～61号住居跡 |
| 図版12 | B区第21号住居跡遺物出土状態
B区第22号住居跡
B区第22号住居跡遺物出土状態 | 図版27 | B区第59号住居跡カマド
B区第60・61号住居跡
B区第60号住居跡カマド |
| 図版13 | B区第23・24号住居跡カマド
B区第25号住居跡
B区第25号住居跡カマド | 図版28 | B区第62号住居跡
B区第62号住居跡遺物出土状態
B区第62号住居跡カマド |
| 図版14 | B区第26号住居跡
B区第28号住居跡
B区第29号住居跡 | 図版29 | B区第63号住居跡
B区第63号住居跡遺物出土状態
B区第64号住居跡 |
| 図版15 | B区第29号住居跡遺物出土状態
B区第29号住居跡遺物出土状態
B区第30号住居跡 | 図版30 | B区第67号住居跡
B区第67号住居跡カマド
B区第68号住居跡 |
| 図版16 | B区第32・33号住居跡
B区第32号住居跡カマド
B区第32号住居跡遺物出土状態 | 図版31 | B区第70号住居跡2号カマド
B区第72号住居跡
B区第73号住居跡 |
| 図版17 | B区第33号住居跡カマド | 図版32 | B区第74号住居跡
B区第74号住居跡遺物出土状態 |

- B区第75号住居跡
 図版33 B区第75号住居跡カマド
 B区第75号住居跡遺物出土状態
 B区第76号住居跡
 図版34 B区第76号住居跡カマド
 B区第76号住居跡遺物出土状態
 B区第76号住居跡遺物出土状態
 図版35 B区第76号住居跡遺物出土状態
 B区第77号住居跡
 B区第78号住居跡
 図版36 B区第78号住居跡遺物出土状態
 B区第78-79号住居跡
 B区第79号住居跡
 図版37 B区第79号住居跡1号カマド
 B区第80号住居跡
 B区第80-81号住居跡
 図版38 B区第81号住居跡カマド
 B区第85号住居跡
 B区第85号住居跡カマド
 図版39 B区第85号住居跡貯蔵穴
 B区第88号住居跡
 B区第88号住居跡カマド
 図版40 方形周溝墓群全景
 B区第1号方形周溝墓
 B区第2号方形周溝墓
 図版41 B区第2号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第3号方形周溝墓
 B区第4号方形周溝墓
 図版42 B区第4号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第5号方形周溝墓
 B区第5号方形周溝墓
 図版43 B区第5号方形周溝墓除橋部
 B区第5号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第5号方形周溝墓遺物出土状態
 図版44 B区第5号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第6号方形周溝墓
 B区第7号方形周溝墓
 図版45 B区第7号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第8号方形周溝墓
 B区第8号方形周溝墓遺物出土状態
 図版46 B区第9号方形周溝墓
 B区第9号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第10号方形周溝墓
 図版47 B区第8-10号方形周溝墓
 B区第11号方形周溝墓
 B区第13号方形周溝墓
 図版48 B区第13号方形周溝墓遺物出土状態
 B区第15号方形周溝墓
 B区第15号方形周溝墓遺物出土状態
- 図版49 B区第1号掘立柱建物跡
 B区第3号掘立柱建物跡P,
 B区第1号火葬墓
 図版50 B区第1号土墳
 B区第9号土墳
 B区第20号土墳
 B区第25号土墳
 B区第28号土墳
 B区第29号土墳
 B区第30号土墳
 B区第32号土墳
 図版51 B区第33号土墳
 B区第34号土墳
 B区第35号土墳
 B区第36号土墳
 B区第38号土墳
 B区第54号土墳
 B区第61号土墳
 B区第1号井戸跡井戸枠
 図版52 B区第1号井戸跡遺物出土状態
 B区第2号井戸跡
 B区第2号井戸跡遺物出土状態
 B区第5号井戸跡
 B区第7号井戸跡
 B区第8号井戸跡
 B区第10号井戸跡
 B区第9号溝跡遺物出土状態
 図版53 B区第1-3号住居跡出土遺物
 図版54 B区第5・6・8号住居跡出土遺物
 図版55 B区第10・11・15・18・21・25・29号住居跡
 出土遺物
 図版56 B区第29・32・33・39・40号住居跡出土遺物
 図版57 B区第40号住居跡出土遺物
 図版58 B区第42・43・45号住居跡出土遺物
 図版59 B区第45・46・48・49号住居跡出土遺物
 図版60 B区第49・53・54・56号住居跡出土遺物
 図版61 B区第57・59~62号住居跡出土遺物
 図版62 B区第62・63号住居跡出土遺物
 図版63 B区第63~65・68号住居跡出土遺物
 図版64 B区第70~72号住居跡出土遺物
 図版65 B区第74~78号住居跡出土遺物
 図版66 B区第78・79・81・85号住居跡出土遺物
 図版67 B区第85~88号住居跡、第2・4号方形周溝
 墓出土遺物
 図版68 B区第4・5号方形周溝墓出土遺物
 図版69 B区第5・7号方形周溝墓出土遺物
 図版70 B区第7~10・13・15号方形周溝墓
 出土遺物
 図版71 B区第1・2・5・6・12号井戸跡、

- 第2号火葬墓出土遺物
 図版72 B区第54・61号土壇・グリッド
 出土遺物
 小形軒丸瓦
 図版73 小形丸瓦
 図版74 小形平瓦
 図版75 C区第1号住居跡
 C区第3号住居跡
 C区第4・5号住居跡
 図版76 C区第6号住居跡
 C区第6号住居跡遺物出土状態
 C区第7号住居跡遺物出土状態
 図版77 C区第8号住居跡
 C区第9・34号住居跡
 C区第9号住居跡遺物出土状態
 図版78 C区第10号住居跡
 C区第11号住居跡
 C区第12号住居跡
 図版79 C区第13号住居跡
 C区第14号住居跡
 C区第15号住居跡
 図版80 C区第15号住居跡遺物出土状態
 C区第16号住居跡
 C区第19号住居跡
 図版81 C区第20号住居跡
 C区第21号住居跡
 C区第21号住居跡カマド
 図版82 C区第22号住居跡
 C区第23号住居跡
 C区第23号住居跡カマド
 図版83 C区第30・31号住居跡
 C区第32号住居跡
 C区第33号住居跡
 図版84 C区第33号住居跡カマド
 C区第34号住居跡カマド
 C区第35号住居跡
 図版85 C区第36号住居跡
 C区第38号住居跡
 C区第38号住居跡カマド
 図版86 C区第38号住居跡遺物出土状態
 C区第39号住居跡
 C区第41号住居跡
 図版87 C区第44号住居跡
 C区第45号住居跡
 C区第45号住居跡カマド
 図版88 C区第47号住居跡
 C区第49号住居跡
 C区第50号住居跡
 図版89 C区第51号住居跡
 C区第51号住居跡カマド
 図版90 C区第52号住居跡
 C区第52号住居跡カマド
 C区第53号住居跡
 C区第53号住居跡カマド
 図版91 C区第54号住居跡
 C区第54号住居跡カマド
 C区第55号住居跡
 図版92 C区第55号住居跡カマド
 C区第56号住居跡
 C区第59号住居跡
 図版93 C区第60号住居跡
 C区第60号住居跡カマド
 C区第60号住居跡
 図版94 C区第61号住居跡1号カマド
 C区第61号住居跡2号カマド
 C区第62号住居跡
 図版95 C区第63号住居跡
 C区第64号住居跡
 C区第64号住居跡遺物出土状態
 図版96 C区第66号住居跡
 C区第67号住居跡
 C区第68号住居跡
 図版97 C区第70号住居跡
 C区第71号住居跡遺物出土状態
 C区第71号住居跡
 図版98 C区第72号住居跡
 C区第72号住居跡カマド
 C区第73号住居跡
 図版99 C区第74号住居跡
 C区第75号住居跡
 C区第75号住居跡カマド
 図版100 C区第78号住居跡
 C区第79号住居跡
 C区第79号住居跡カマド
 図版101 C区第79号住居跡遺物出土状態
 C区第80号住居跡
 C区第80号住居跡遺物出土状態
 図版102 C区第81号住居跡
 C区第81号住居跡カマド
 C区第82号住居跡
 図版103 C区第85号住居跡
 C区第86号住居跡
 C区第86号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
 図版104 C区方形周溝墓群全景(西から東)
 C区方形周溝墓群全景(東から西)
 C区方形周溝墓群全景(中央から西)
 図版105 C区第1号方形周溝墓
 C区第1号方形周溝墓遺物出土状態

- C区第1号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版106 C区第3号方形周溝墓
 C区第4号方形周溝墓
 C区第5号方形周溝墓
 图版107 C区第5号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第5号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第5号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版108 C区第6号方形周溝墓
 C区第7号方形周溝墓
 C区第7号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版109 C区第7号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第8号方形周溝墓
 C区第8号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版110 C区第9号方形周溝墓
 C区第9号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第10号方形周溝墓
 图版111 C区第10号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第11号方形周溝墓
 C区第11号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版112 C区第12号方形周溝墓
 C区第12号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第13号方形周溝墓
 图版113 C区第14号方形周溝墓
 C区第15号方形周溝墓
 C区第16号方形周溝墓
 图版114 C区第17号方形周溝墓
 C区第17号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第17号方形周溝墓遺物出土狀態
 图版115 C区第18号方形周溝墓
 C区第18号方形周溝墓遺物出土狀態
 C区第19号方形周溝墓
 图版116 C区第1号掘立柱建物跡
 C区第3·4号掘立柱建物跡
 C区第3号掘立柱建物跡
 图版117 C区第4号掘立柱建物跡
 C区第5号掘立柱建物跡
 C区第6号掘立柱建物跡
 图版118 C区第12号掘立柱建物跡
 C区第15号掘立柱建物跡
 C区第16号掘立柱建物跡
 图版119 C区第17号掘立柱建物跡
 C区第2号竪穴状遺構
 C区第2号竪穴状遺構遺物出土狀態
 图版120 C区第3号竪穴状遺構
 C区第1号円形周溝状遺構
 C区第2号円形周溝状遺構
 图版121 C区第1号土墳墓檢出狀況
 C区第1号土墳墓遺物出土狀態
 C区第1号土墳墓遺物出土狀態
 图版122 C区第1号火葬墓
 C区第2号火葬墓
 C区第1号敷石遺構
 图版123 C区第5号土墳
 C区第19号土墳
 C区第22号土墳
 C区第30号土墳
 C区第38号土墳
 C区第44号土墳
 C区第45号土墳
 C区第48号土墳
 图版124 C区第63号土墳
 C区第64号土墳
 C区第69·70号土墳
 C区第77号土墳
 C区第79号土墳
 C区第83号土墳
 C区第92号土墳
 C区第98·99号土墳
 图版125 C区第1号井戸跡埋出土狀態
 C区第4号井戸跡
 C区第4号井戸跡遺物出土狀態
 C区第8号井戸跡
 C区第9号井戸跡
 C区第10号井戸跡遺物出土狀態
 C区第12号井戸跡
 C区第13号井戸跡
 图版126 C区第17·18号井戸跡
 C区第18号井戸跡遺物出土狀態
 C区第19号井戸跡
 C区第20号井戸跡
 C区第20号井戸跡遺物出土狀態
 C区第21号井戸跡
 C区第23号井戸跡
 C区第23号井戸跡埋出土狀態
 图版127 C区第23号井戸跡断面
 C区第24号井戸跡
 C区第29号井戸跡
 C区第30号井戸跡
 C区第31号井戸跡
 C区第1号溝跡
 C区第2号溝跡
 C区第31号溝跡
 图版128 C区第3·4·6号住居跡出土遺物
 图版129 C区第6~9号住居跡出土遺物
 图版130 C区第9·10·12·15·20号住居跡出土遺物
 图版131 C区第20·21·23号住居跡出土遺物
 图版132 C区第23·24·27·29~31·34号住居跡

出土遺物

- 図版133 C区第35・36・38号住居跡出土遺物
図版134 C区第38・41・45・49・51号住居跡
出土遺物
図版135 C区第51・52・54・58・61号住居跡
出土遺物
図版136 C区第61・64・65号住居跡出土遺物
図版137 C区第66・68・70号住居跡出土遺物
図版138 C区第70・71号住居跡出土遺物
図版139 C区第72号住居跡出土遺物
図版140 C区第72・75・76・78号住居跡
出土遺物
図版141 C区第78・80・84～87号住居跡
出土遺物
図版142 C区第1号方形周溝墓出土遺物
図版143 C区第1号方形周溝墓出土遺物
図版144 C区第1・2号方形周溝墓出土遺物
図版145 C区第5号方形周溝墓出土遺物
図版146 C区第5号方形周溝墓出土遺物
図版147 C区第7号方形周溝墓出土遺物
図版148 C区第7～9号方形周溝墓出土遺物
図版149 C区第9・10号方形周溝墓出土遺物
図版150 C区第10～12号方形周溝墓出土遺物
図版151 C区第12・17号方形周溝墓出土遺物
図版152 C区第17号方形周溝墓、
第2・5・15号井戸跡出土遺物
図版153 C区第10・17・21・22号井戸跡、
第28・62・63号土壇出土遺物
図版154 C区第63・71・77号土壇出土遺物、
ビット・グリッド出土遺物
図版155 C区表採・瓦・中世陶器・横橋・
玉類・紡錘車
図版156 C区出土板碑
図版157 B・C区出土鉄鎌・刀子・刀子柄・
U字形鋤先・帯金具
図版158 C区第1号土壇墓出土鉄剣・
兵庫鎖

I 発掘調査の概要

1 発掘調査に至る経過

首都圏における人口増加の波は著しく、全国の三分の一の人口が集中している。埼玉県ではそれに対応するため、住宅・都市整備公団を中心に住宅政策及び地域環境整備計画が進められている。坂戸市入西(西部)地区については、住宅・都市整備公団により区画整理方式による宅地開発事業が計画された。

住宅・都市整備公団では文化庁との間で取り交わされた「住宅・都市整備公団の事業施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに関する覚書」に基づき、埼玉県教育委員会へ「坂戸市入西(西部)地区における埋蔵文化財の取り扱いについて」照会した。

県教育委員会では、埋蔵文化財遺跡地名表等に基づき、昭和56年1月20日付け教文第918号をもって次のとおり回答した。

記

1. 文化財の所在

名 称	所 在 地	種 別	時 期
坂戸市 No99	坂戸市大字堀込	古 墳	古墳時代後期
柵塚古墳	字桑原157		

上記の他に条里遺跡及び畑地部分に集落遺跡の存在が予想される。

2. 取り扱いについて

- (1) 開発予定地内は事前の遺跡分布調査及び必要に応じて試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する必要がある。
- (2) 上記の結果をもとに埋蔵文化財ができるだけ現状保存できる開発計画を策定することが望ましい。
- (3) 計画上、やむを得ず現状変更する場合は、文化財保護法第57条3の規定により、事前に文化庁長官あて埋蔵文化財発掘通知を提出して、記録保存のための発掘調査を実施すること。

住宅・都市整備公団と県教育委員会では開発地域内に所在する遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して昭和59年度から発掘調査を実施することに決定した。

文化財保護法に基づき、住宅・都市整備公団からは埋蔵文化財発掘通知、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは埋蔵文化財発掘調査届が文化庁長官へ提出され、稲荷前遺跡の発掘調査は昭和61年4月1日から平成元年3月31日まで実施された。

(文化財保護課)

2 発掘調査・報告書刊行事業の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査(昭和61～63年度)		(2) 整理・報告書刊行事業(平成4・5年度)	
理事 長	長 井 五 郎	理 事 長	荒 井 修 二(H4)
副 理 事 長	岩 田 明(S61)	理 事 長	荒 井 桂(H5)
	百 瀬 陽 二(S62・63)	副 理 事 長	早 川 智 明(H4)
常 務 理 事 兼 管 理 部 長	町 田 勝 義(S61)	副 理 事 長	富 田 真 也(H5)
常 務 理 事 兼 調 査 研 究 部 長	早 川 智 明(S62・63)	専 務 理 事	横 川 好 富(H5)
管 理 部		常 務 理 事 長 兼 管 理 部 長	倉 持 悦 夫(H4)
管 理 部 長	原 田 家 次(S62・63)	常 務 理 事 兼 管 理 部 長	柴 崎 光 生(H5)
主 査	岡 野 栄 一	理 事 兼 長	栗 原 文 藏(H4)
主 事	江 田 和 美	理 事 兼 長	中 島 利 治(H5)
主 事	岡 野 美 智 子	管 理 部	
主 事	岡 野 福 田 浩(S61・62)	庶 務 課 長	萩 原 和 夫
主 事	福 本 庄 人	主 査 事	費 池 清 久
主 事	本 齊 朗 勝 秀(S63)	主 査 事	関 野 栄 一
調 査 研 究 部		主 査 事	江 田 和 美
部 長	中 島 利 治(S61)	主 査 事	長 福 昭 美
副 部 長	小 川 良 祐(S61)	主 査 事	腰 塚 雄 二
副 部 長	小 塩 野 博(S62・63)	資 料 部	
第 二 課 長	駒 宮 史 朗(S61)	部 長	中 島 利 治(H4)
第 二 課 長	辻 野 孝 次(S62・63)	部 長	小 川 良 祐(H5)
主 任 調 査 員	日 野 義 信(S62)	副 部 長 兼 資 料 整 理 第 一 課 長	増 田 逸 朗(H4)
主 任 調 査 員	村 田 健 二(S61・62)	副 部 長 兼 資 料 整 理 第 二 課 長	谷 井 彪(H5)
主 任 調 査 員	中 村 司(S61)	主 任 調 査 員	富 田 和 夫
主 任 調 査 員	昼 間 志 志(S61・62)		
調 査 員	富 田 和 夫(S63)		
調 査 員	西 口 正 純(S63)		
調 査 員	細 田 勝 勝(S62)		
調 査 員	黒 坂 楨 二(S61)		
調 査 員	大 谷 徹(S61・62)		

3 発掘調査・報告書作成の経過

稲荷前遺跡の調査は昭和61年4月から平成元年3月31日までの3ヶ年にわたって実施された。調査対象面積は48,000㎡に及ぶ。遺跡内は谷地形により大きく4地点に分かれそれぞれA～D区と呼称した。A区は昭和61年度と昭和63年度に、B区は昭和61・62年度、C区は62年度、D区は61年度に調査を行なった(但し、D区は整理段階でA区に含めた)。調査は多年度に及び検出された遺構数も膨大であるため細かい経過は省略し、本書に関するB・C区の調査経過の概要を年度毎に記すことにする。

発掘調査

昭和61年度 10月、B区の遺構確認に着手する。方形周溝墓と古代の住居跡が存在することが判明した。11月、B区西端部から調査を開始する。住居跡は奈良時代から平安時代のもので、遺存状

態はかなり悪い。周溝墓は冬場にも拘らず水が湧き、調査は難航した。第5号方形周溝墓は北側周溝の中央部をブリッジ状に掘り残し、前方後方形周溝墓の一種と考えることもできる特殊なタイプであった。3月までに住居跡20軒、方形周溝墓7基、溝跡5条、井戸跡5基等の調査を終了した。

昭和62年度 4月、調査員を5名に増強して、B区・C区の調査を平行して進めた。B区では方形周溝墓が16基、住居跡が80軒を超えることが確認され、急ピッチで調査を進めた。本年度調査された周溝墓は遺存状態の悪いものが多く、出土遺物も比較的少なかった。住居跡は新たに古墳時代前期のものも確認された。調査区中央部から東寄りにかけて激しく重複した状態で検出され、新旧関係の確認が難しいものもかなり存在した。C区では方形周溝墓が19基と80軒を超える住居跡、中世の堀等多数の遺構が確認された。周溝墓は大型のものが多くうえに湧水が激しく、調査は難航した。第1号土壌基からは鉄剣が出土し、方形周溝墓との関連の有無についても慎重に調査を進めた。9月までに住居跡50軒、周溝墓16基他の調査を終了した。11月、調査がある程度進展したため一般市民を対象にした現地説明会を開催した。当日は300名を超える多数の人々が来跡し、調査員の説明に熱心に耳を傾けていた。3月までにB区では住居跡89軒、方形周溝墓16基等、C区では住居跡87軒、方形周溝墓19基を始め、多数の遺構の調査を終了した。

整理・報告書作成事業

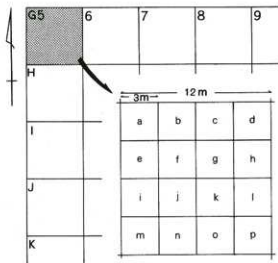
平成4年度 稲荷前遺跡B・C区の整理に着手。4月から10月、遺物接合と図面整理、遺物実測を並行して進める。11月以降、遺物復元・遺物実測・トレース、各遺構図の作成と仮版組、トレースを開始する。

平成5年度 5月～8月各遺構図の作成と遺物実測終了。版組を開始する。9月～1月、遺物版組と遺構原稿の執筆を行なう。2～3月、遺物写真撮影と割付け・編集作業。

平成6年度 6月印刷業者決定。7～10月校正・報告書の刊行。

4 発掘調査の方法

発掘調査はA・B・C区と各地区単位に行なったため、遺構番号は地点毎に附した。また地点の呼称方法は遺跡全体を包含する12mグリッドを切り、北西隅を起点に南北にA・B・C…、東西に1・2・3…とし交差する位置を、例えばG-5区と呼称した。12m方眼内の分割は3m×3mを小区画としa・b・c…と表わした。遺物の取り上げ方法は基本的に遺構単位とした。可能な限りドット処理を行い、水平位置、および垂直位置を数値で残す方向で進めた。



第1図 グリッドの名称と分割

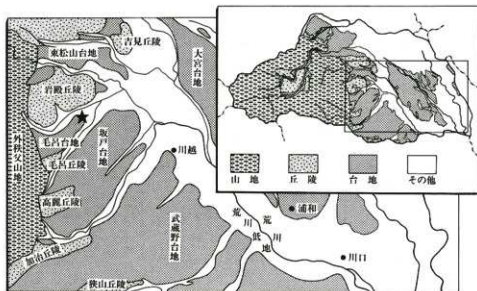
II 立地と環境

立地

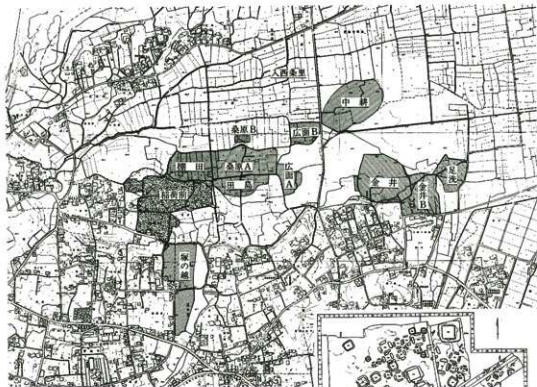
稲荷前遺跡は埼玉県坂戸市大字竹之内に所在する。位置的には東武東上線北坂戸駅の西約3km、越辺川を臨む毛呂台地の北東部先端の低台地上に立地し、標高約31mを測る。遺跡北側には越辺川によって形成された後背湿地(沖積地)が広がり、肥沃な水田地帯を形成している。水田面との比高差は1.0~1.5m程である。遺跡の立地する毛呂台地は広義の入間台地に含まれ西側は毛呂山丘陵を経て外秩父山地に続き、北側は越辺川を挟んで岩殿丘陵と対峙する。東側と南側は高麗川に面されそれぞれ坂戸台地、入間台地に移行する。この毛呂台地は越辺川、高麗川を始め、台地内を貫流する葛川等の中小河川とその支流の侵蝕を受け、起伏に富んだ複雑な地形を形成している。一方、高麗川以東の坂戸台地は毛呂台地と対照的に比較的平坦な扇状地地形が広がり、勝呂庵寺、若葉台遺跡はこの台地上に形成されている。毛呂台地と坂戸台地を取り巻くように広がる広大な沖積地は越辺川とその支流たる高麗川・葛川・飯盛川等の小河川により形成されたもので、本遺跡も含めた越辺川右岸に形成された遺跡群成立の母胎であると言える。

周辺遺跡の概観

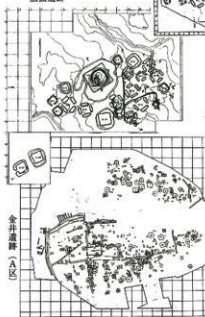
まず、坂戸入西地区土地区画整理事業地内に位置する遺跡群の様相を概観しておきたい。当事業地内には越辺川中流域右岸にあたり、稲荷前遺跡の他に塚の越遺跡、棚田遺跡、田島遺跡、桑原遺跡(A・B区)、広面A遺跡、広面B遺跡、中耕遺跡、金井遺跡(A・B区)、足洗遺跡が存在する。稲荷前遺跡は古墳時代前期の周溝墓群と古墳時代後期~平安時代の集落、塚の越遺跡は前方後円墳と古墳時代後期~平安時代の集落、棚田遺跡は古墳時代後期初頭の集落、田島遺跡は古墳時代後期~平安時代の集落、桑原A遺跡は古墳時代後期初頭の集落と平安時代の集落、桑原B遺跡は古墳時代後



第2図 埼玉県の地形区分



広瀬遺跡



桑原A遺跡



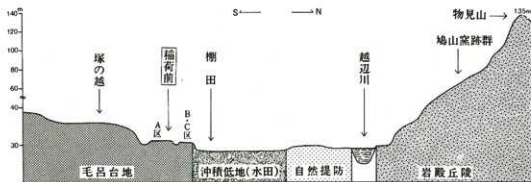
第3図 事業地内の遺跡分布

期と推定される水田状遺構、広面遺跡は弥生時代終末期～古墳時代初頭の周溝墓群、中耕遺跡は同時期の集落と周溝墓群、金井遺跡は古墳時代後期～奈良時代の集落、金井遺跡B区は古墳時代後期～平安時代の集落と中世の鑄造遺跡、足洗遺跡は古墳時代後期～平安時代の集落である。

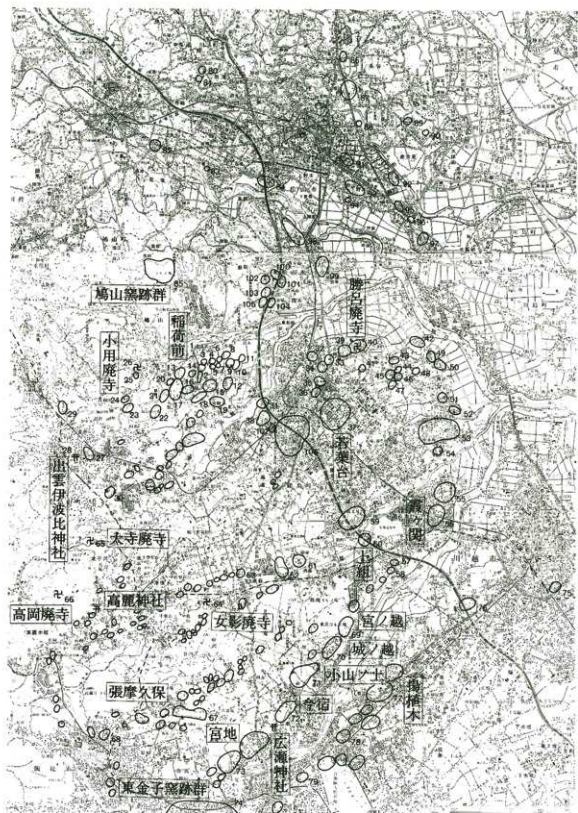
これらの遺跡群は立地面から大きく4つに分けられ、稲荷前遺跡よりも一段高い高燥な台地上に位置する塚の越・金井遺跡B区、沖積低地に面した低台地上に立地する稲荷前・田島・桑原・金井遺跡A区・足洗遺跡、沖積面下に埋没したローム台地上に立地する広面・中耕遺跡、水田下の沖積地に立地する棚田遺跡である。こうした立地上の差異は遺跡形成の時的な相違をも微妙に反映していることが次第に解ってきた。すなわち、最も低位な現水田下に位置する棚田・中耕・広面B遺跡には7世紀以降集落は形成されず、沖積地に面した稲荷前・桑原A・金井B・足洗・田島・塚の越遺跡といった台地部に集落域が限定される傾向が認められる。恐らく、古墳時代後期を画期とするこうした集落の高位面への移動という背景には第一義的には河川の氾濫による堆積作用が挙げられるが、それとともに可耕地の拡大を意図した積極的な水田開発があったものと推測される。現に桑原遺跡北側の沖積面には7世紀頃と推定される水田状遺構が検出され(桑原B遺跡)、6世紀前半代と推定される棚田遺跡の消滅後、さほどの期間を経ないで水田化された状況を読み取ることができる。棚田・桑原B両遺跡はこの地に形成されたとされる「入西条里」水田推定域内の一角に位置し、入西条里の施行時期を検討する際の貴重な情報を提供しているといえる。入西条里の施工時期を巡る問題はひとまず置くにしても、稲荷前遺跡が古墳時代後期～平安時代まで連続し得た背景には、条里推定地内の水田経営を想定せざるを得ないであろう。

さて、周辺地域を含めた歴史的環境に目を転じてみよう。各時代の主な遺跡や歴史的環境に関しては既に「金井遺跡」(登間1989)、「広面遺跡」(村田1990)、「塚の越遺跡」(登間1991)、「中耕遺跡」(杉崎1993)の各報告書によって網羅的に詳述されており、また稲荷前遺跡A区の報告の中でも古代入間・高麗郡の遺跡様相に関して概観した(富田1992)。本稿では稲荷前遺跡B・C区の存続期間である古墳時代前期と古墳時代後期(鬼高期)～奈良・平安時代の遺跡様相について概括するに留めたい。

弥生時代終末～古墳時代前期に関する遺跡は入西遺跡群のなかでは中耕遺跡、広面遺跡がある。坂戸市内では長岡遺跡(住居跡11軒)、勇福寺遺跡(方形周溝墓5基)、附島遺跡(方形周溝墓2基)、木



第4図 地形断面模式図



第5図 周辺の遺跡分布

曾免遺跡(住居跡5軒)が本遺跡と同様に越辺川右岸の沖積地に面した低台地先端部に形成されている。また、越辺川支流の高麗川右岸には宮裏遺跡(住居跡11軒・周溝墓9基以上)、谷治川左岸には石井原前遺跡(住居跡6軒)が存在し、台地先端からは奥まった位置に占地する。坂戸台地南部の大谷川南岸には上谷遺跡、金山遺跡、北岸には高窪遺跡(住居跡8軒)、小畔川流域には登戸遺跡、霞ヶ関遺跡が存在する。何れも台地先端部付近に立地している。また、弥生時代終末段階の遺跡には坂戸市新しき村遺跡で吉ヶ谷式土器、川越市鶴ヶ丘遺跡では前野町式土器と吉ヶ谷系土器が検出され、吉ヶ谷文化圏と南関東文化圏の錯綜した状況が窺える。

附島遺跡、勇福寺遺跡、宮裏遺跡では方形周溝墓が検出されているが、当地域の伝統的な形態である四隅切れタイプのは影を潜め、全周形系統に変化している。器種組成をみると、小形器台、小形埴、東海系の高坏、いわゆる二重口縁壺など非在来土器群が器種組成に参画すること、また煮沸形態として南関東系の台付甕が一般化するなど墓制から器種組成、あるいは住居形態に至るまで弥生時代的様相が大きく変化した段階といえる。入間北部から比企郡にかけて主体的に分布した弥生時代後期の吉ヶ谷式土器はほとんど消滅している。

越辺川左岸の比企丘陵では、五領式土器のタイプサイトである五領遺跡が挙げられる。畿内・北陸・東海各地域の強い影響を受けた土器群が見られ、本地域の中核的集落と考えられる。番清水遺跡では大型方形周溝墓が単独で検出されている。下道添遺跡は弥生時代終末段階～古墳時代初頭の集落と前方後方形周溝墓を含む周溝墓が13基検出された。また、高坂丘陵では吉ヶ谷式土器に台付甕や小形器台を伴った根平遺跡、前野町式の装飾壺をもつ桜山遺跡、吉ヶ谷式土器を主体とする住居と前野町式土器を主体とする住居の双方が存在する代正寺・大西遺跡など遺跡様相は様々で、弥生時代から古墳時代に転換する段階の複雑な様相を凝縮しているかのようである。

次に古墳時代後期以降の遺跡分布を概観すると、古代入間郡及び高麗郡には中核となる集落群が幾つか抽出される。例えばA稲荷前遺跡周辺、B勝呂廃寺周辺、C若葉台・山田・脚折遺跡群、D霞ヶ関・河越館跡内遺跡、E日高市若宮遺跡周辺、F飯能市張摩久保遺跡周辺、G狭山市宮の越遺跡から宮地遺跡までの集落群、H揚植木遺跡周辺、I東の上遺跡周辺、J荒川右岸地域の富士見市、上福岡市周辺地域である。

これらの集落群の時代的消長を大掴みにみると、A・Bの地域は7世紀以降10世紀に至るまで遺跡がほぼ継続する長期継続型の集落群である。その背景には越辺川右岸の広大な可耕地の存在が大きく、それを生産基盤とした相対的に安定した集落群といえる。特にBの地域では7世紀後半段階で勝呂廃寺を造立し得た有力な勢力が成長していたことが窺え、入間郡内でも屈指の遺跡群といえよう。

D・I・Jの地域は7世紀代から集落形成はなされるが、集落規模や集落数が増加するのは8世紀以降のようである。対してC・E・F・Gの地域は古墳時代後期の遺跡がほとんどないか、あっても一定の断絶期間を挟んで8世紀前半頃新たに集落が形成されたと推定される。若葉台を中核とするCの遺跡群は可耕地からもかなり隔たった内陸部に位置すること、和同開珎や奈良三彩、最近では漆紙文書が発見されるなど、直接生産に携わった集落というよりも、別の目的をもって政治的に成立せしめられた遺跡の可能性があろう。Eの遺跡群に抱擁される光山遺跡群では集落の形成時

期が7世紀中葉前後まで遡ることが明らかとなった。以後8世紀後半段階まで集落は連続するようである(註1)。この遺跡群は高麗建郡との関りのなかで捉えられてきたが、光山遺跡群と同様あり方が他の高麗郡推定地内の遺跡でも認められるのか、今後慎重に見極める必要があるようである。逆にそれによって同遺跡群の位置付けも決まってくるものであろう。何れにせよ入間郡と高麗郡の遺跡様相を理解するに当たって鍵を握る遺跡の一つである。

一方坂戸市上谷遺跡や川越市上組I・II遺跡、越辺川の対岸にある舞台遺跡等のように古墳時代後期(6・7世紀)に営まれた大集落が律令期には断絶するか極端に勢力を弱めてしまう例もみられ、律令期形成段階の社会的変動の大きさを物語っている。先に摘出した集落群が古代入間郡・高麗郡を構成する郷の中心的な位置を占めていたことは疑いない。当然文献に記されている古代入間郡における郷名と遺跡群の対比という作業も射程に入るが、郡域が未確定な状況下では、比企郡域を含めた遺跡内容の吟味や土器様相の相互比較などまず検討すべき課題が山積している。

最近の調査で注目を集めた遺跡としては川越市八幡前・若宮遺跡がある。8世紀初頭前後の土師器皿に「驛長」と記された墨書が残されていた。所沢市東の上遺跡で確認された武蔵国府から上野に至る古代東山道武蔵路の推定ルート沿いにあたり、驛家との関連性が指摘されている。調査では関連する遺構は検出されていない。また、同遺跡から数百メートル隔てて位置する東下川原遺跡では、8世紀初頭を前後する段階の多量の土師器が集積した遺構が調査された。いわゆる土師窯及至、それに関連する施設の可能性があり、比企型環状退後の土師器生産を考える際に無視できない遺跡といえる(註2)。両遺跡は霞ヶ関遺跡とも至近距離にあり、相互に有機的な関係をもつものと考えられる。

須恵器窯跡は稲荷前遺跡対岸の比企丘陵を主要な舞台として、6世紀代から断続的に操業されている。7世紀代の窯跡は根平、小用、舞台遺跡で検出されているが、いずれも個性の強い土器群で系統的な連続性は追えないようである。8世紀になると南比企窯跡群の中核である鳩山窯跡群の生産が開始され、以後10世紀初頭前後まで安定的な生産体制が維持されたことが判明している。また、最近では国分寺瓦窯で知られる赤沼支群から7世紀代に遡る可能性をもつ須恵器窯(石田窯)が調査された。7世紀後半段階の立野遺跡、8世紀初頭頃の山下6号窯との関係を窺う資料としても注目される(註3)。周辺地区では坂戸台地南端の平谷窯跡が発見されているが、7世紀代の単独窯で継続的な操業は行われなかったものと推定される。

また、鳩山窯跡群の工人集落では小鍛冶遺構が発見され、須恵器工人が鉄生産にも関与していた可能性が指摘されている。鉄生産に関して言えば、最近大井町東台遺跡から8世紀代に遡る製鉄遺跡が発見された。調査によって炭焼き窯を伴う製鉄炉が数基発掘され大規模な生産体制であったことが判明した。入間郡内の製鉄遺跡としては最初の例であるばかりか、県内の製鉄遺跡としても最古段階に位置付けられるもので注目される遺跡である。

註1 昨年度当事業団で整理を実施した。

註2 鶴ヶ島市遺跡調査会で整理中。早川由利子女士のご厚意で実見させていただいた。

註3 渡辺 一氏のご教示による。

第5図 揚載遺跡一覧

1	稲荷前	28	出雲伊波比神社	54	登戸	82	西原古墳群
2	塚の越	29	越生五領	55	河越館跡内・龍光池	83	青塚古墳
3	棚田	30	新しき村	56	霞ヶ関	84	附川
4	桑原	31	花影	57	八幡前・若宮	85	鳩山窯跡群
5	田島	32	芦山	58	東下川原	86	沢口
6	広面B	33	相撲場	59	鶴ヶ丘	87	岩鼻
7	広面A	34	金内山	60	上組 I・II	88	観音寺
8	中耕	35	新山古墳群	61	登野山	89	かぶと塚古墳
9	金井A	36	山田	62	光山	90	山の根古墳
10	金井B	37	若葉台	63	新宿	91	五領
11	足洗	38	宮裏	64	女影鹿寺・若宮	92	番清水
12	北浦西峰(古墳群)	39	勇福寺	65	大寺鹿寺	93	山王裏・中原
13	長岡	40	勝呂鹿寺・ 勝呂遺跡群	66	高岡鹿寺	94	野本將軍塚古墳
14	稲荷森	41	石井前原	67	張摩久保	95	下道添
15	三福寺古墳群	42	附島	68	旭原	96	古塚・根岸裏
16	善能寺古墳群	43	明泉	69	宮ノ越	97	根岸稲荷神社古墳
17	杏林古墳群	44	青木堀ノ内	70	城ノ越	98	諏訪山古墳群
18	大河原遺跡(古墳群)	45	住吉中学校 若宮遺跡	71	小山ノ上	99	代正寺・大西
19	成願寺古墳群・ 若宮遺跡	46	宮町	72	今宿	100	舞台
20	神明台	47	清造場	73	宮地	101	桜山
21	明神台	48	駒方	74	東金子窯跡群	102	根平
22	川角古墳群	49	小沼堀ノ内・ 牛塚山古墳群	75	仙波	103	緑山
23	西戸古墳群	50	木曾免	76	南大塚古墳群	104	駒堀
24	西戸丸山窯跡	51	丸山	77	楊幡木	105	立野
25	小用窯跡	52	高窪	78	滝・紙園	106	脚折遺跡群
26	小用鹿寺	53	上谷・金山	79	稲荷山公園古墳群	107	羽折
27	伴六			80	寺谷		
				81	羽尾		



III 遺跡の概観

稲荷前遺跡は入西遺跡群の西端に位置する。調査区は東西500m、南北250mの広がりをもち調査面積は48,000㎡に及ぶ。遺跡は西側の調査区域外にも連続し、竹之内の集落を經過おそらく谷を隔てた長岡遺跡と隣接するものと推定される。地形的には北側に広がる沖積低地に面した低ローム台地先端に位置し、南側は塚の越遺跡、東側は田島遺跡・桑原遺跡、北側は棚田遺跡が隣接する。

調査区は浅い谷状地形によりA～C区に区分される。遺跡全体にわたって古墳時代後期から奈良・平安時代の集落と中世遺構が全面に展開する他、B・C区では古墳時代前期の集落と方形周溝墓群が帯状に累々と営まれていた。検出された遺構の内訳は以下のとおりである。

A区 竪穴住居跡135軒、掘立柱建物跡52棟、井戸跡46基、溝跡39条、土塋296基、ビット756基、竪穴状遺構5基、小鍛冶遺構1基、火葬墓1基

B区 竪穴住居跡89軒、掘立柱建物跡6棟、井戸跡14基、溝跡12条、土塋59基、方形周溝墓16基、火葬墓2基、ビット群

C区 竪穴住居跡87軒、掘立柱建物跡11棟、井戸跡30基、溝跡30条、土塋115基、方形周溝墓19基、竪穴状遺構5基、敷石遺構2基、土塋墓1基、火葬墓2基、ビット群

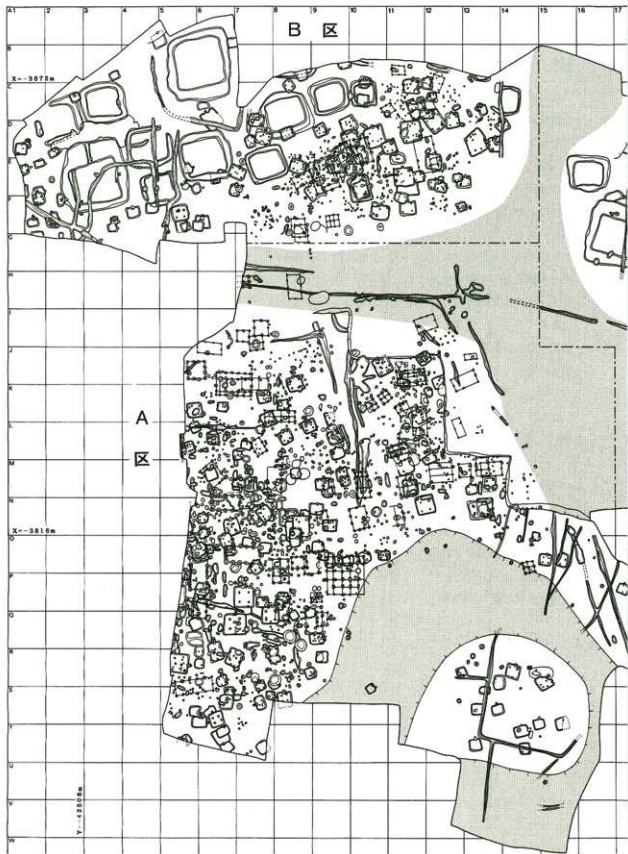
このほかB区とC区を分かつ谷部には須恵器を多量に含む包含層が形成されていた(扱いはB区包含層とした)。合計すると竪穴住居跡311軒、掘立柱建物跡69棟、井戸跡90基、溝跡81条、土塋470基、方形周溝墓35基、土塋墓1基、火葬墓5基、竪穴状遺構10基、小鍛冶遺構1基、敷石遺構2基のほか、多数のビット群と遺物包含層が検出されたことになる。

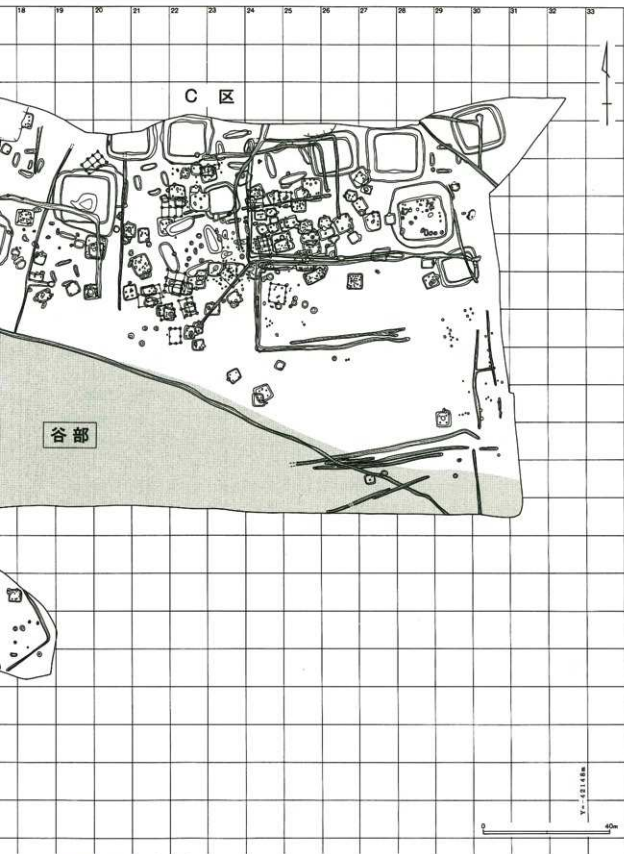
A区は調査区南西部にあたり、7世紀中葉から10世紀初頭頃までに営まれた135軒の住居跡ほかが発出された。第1号住居跡からは円面硯が1点、第1号井戸跡からは2点の墨書土器が発見された。墨書土器のうち1点は須恵器蓋で「多磨郡男川」、「□(大カ)里郡」、「□尺本」等と記されている。他の1点は須恵器坏の底部に「多カ」と記されている。武蔵国の郡名が複数記載されており注目する資料といえよう。

掘立柱建物跡は52棟検出された。出土遺物から7世紀代と推定されるものも発見された(SB14・15)。また8・9世紀代の建物も特に第I・II群では配置にかなり規格性が認められる例、3×3間の総柱建物の周囲に3面乃至4面の庇を設けた大規模な建物が発出されている。その他、中世と推定される建物群も併存するため時期的な弁別作業は困難なものも多く認められた。

出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、瀬戸美濃系陶器、在地産陶器、瓦類、鉄器、青銅器、木製品、石製品、瓦塔、土製品等が発出された。

B区は調査区北西部にあたる。東西に入り込む浅い谷によりA区と区画され、南北に抜けるやや深い谷によりC区と区分される。調査区北側は未調査区の墓地を介して沖積地と接する。標高は約30～31m。古墳時代前期の遺構は住居跡4軒、方形周溝墓16基が発出された。周溝墓は調査区でも北側の台地縁辺部に帯状に構築され、第5号周溝墓は北溝中央部に陸橋部が残されていた。四隅切れの周溝墓が少なく、全周形系統のそれが主体となる。集落は周溝墓と直接切り合うことはなく、台地内陸部に立地する傾向が認められる。





古墳時代後期～平安時代の住居跡は85軒検出された。6世紀前半頃の住居跡が1軒、その後断絶期間を経て、6世紀末～7世紀初頭に再び集落域となる。以後10世紀代に至るまでは継続して集落が営まれていた。集落は調査区のほぼ全面に展開するが、中央から東側にかけて激しく重複していた。掘立柱建物跡もそれに加わり、遺構の把握はかなり困難な状況であった。

出土遺物は土師器、須恵器を主体とする。特筆されるものとしては小形瓦が挙げられる。稲荷前タイプとして設定できるもので、通常の瓦に比して小形である。瓦当文様も特殊で類例がないものである。出土数は100点を超え、おそらく調査区内またはその周辺部に瓦葺きの建物が存在したものと推定される。

中世の遺構は溝・井戸などが検出され、凡そ13～15世紀にかけて集落域として使用されたものと考えられる。特に西城の第3号溝周辺は屋敷の区画溝の可能性がある。

C区は調査区北東部にあたり、北側に棚田遺跡、東側に田島遺跡が隣接する。標高は29～30mである。基本的な遺跡様相はB区と同様であり、古墳時代前期の集落と周溝墓群、古墳時代後期から平安時代の集落、そして中世の遺構群によって構成されている。周溝墓はB区同様、北側の台地縁辺部を中心に展開していた。B区に比べると四隅切れ周溝墓が相対的に多い点が指摘できる。ほぼ同時期の集落は15軒検出された。一部は周溝墓とも切り合い、調査の結果、住居跡の方が古いことが確認された。基本的には集落域から墓域に転化したものと捉えられるが全ての住居が周溝墓よりも古い段階に留まるかどうかは検討を要する事項である。また、土壙墓からほぼ完形の鉄剣が一振出土した。長剣に分類されるもので、出土状態から土壙墓に伴う副葬品と考えられる。時期を特定することは難しいが、おそらく5世紀代のものと推定される。

古墳時代後期～平安時代の住居跡は73軒検出された。調査区の全域に営まれ、重複する例も多い。特に羽釜を伴う住居跡と思われる遺構が検出されたことは集落の下限を示す新たな知見である。

中世の遺構は井戸跡と溝跡が主なものである。溝跡には大きく3つの区画溝が認められ、屋敷を区画する堀的な機能を果たしたものと推定される。井戸跡からは鎌倉時代末期から室町時代にかけての青磁、瀬戸美濃系陶器、常滑焼の甕、在地産の軟質陶器類の他、板碑片、石臼などが検出された。該期の建物は6棟確認された。いずれも屋敷推定地外にあり時間的な相違があるのかもしれない。

稻荷前遺跡B区



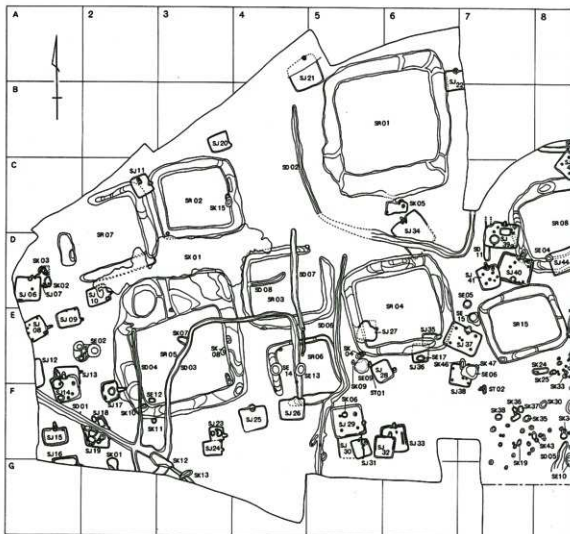
B区 方形周溝基群

IV B区の遺構と遺物

1 B区の概観

B区で検出された遺構は古墳時代前期の住居跡4軒、方形周溝墓16基、土壇2基、古墳時代後期～平安時代の住居跡85軒、掘立柱建物跡9棟、井戸跡5基、土壇32基、中世以降の遺構としては掘立柱建物跡6棟、井戸跡12基、土壇11基、溝跡15条がある。

古墳時代前期の周溝墓は調査区北側の台地縁辺部に分布している。四隅切れと思われるものが1基、その他は全周形または一部に陸橋を有するタイプである。特に第5号方形周溝墓は北溝中央に幅の狭い陸橋部が形成されており、前方後方形周溝墓の亜型とも捉えられるものである。周溝墓数に比して住居跡は少なく4軒に留まる。周溝墓との直接的な切り合い関係はなく、台地縁辺から奥



第7図 B区全測図(1/600)

部に立地する。

古墳時代後期～平安時代の住居跡は調査区全域に広がっているが、特に台地中央部の平坦地に集中して構築されていた。6世紀初頭前後の住居跡が1軒検出されたほかは、6世紀末以降の住居跡群で10世紀初頭前後まで継続する。掘立柱建物跡は9棟検出され、第2号掘立柱建物跡は5×3間と大型である。また、B区からは小形の瓦が多量に検出され、周辺に瓦葺き建物が存在した可能性がある。出土状況から9世紀後半以前に機能していた可能性もある。また、B区東端の谷部には8世紀から9世紀代の須恵器を含む遺物包含層が形成されていた。

中・近世の遺構は溝跡、井戸跡、掘立柱建物跡などが検出された。溝跡のうち、調査区西側の第3号溝跡を中心とする一群は「コ」の字形に巡り、中世の屋敷地を区画する溝と推定される。その他、遺構そのものは検出されなかったが縄文時代の土器と石器、弥生時代の土器が少量検出された。



2 古墳時代前期の遺構と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡(第9図)

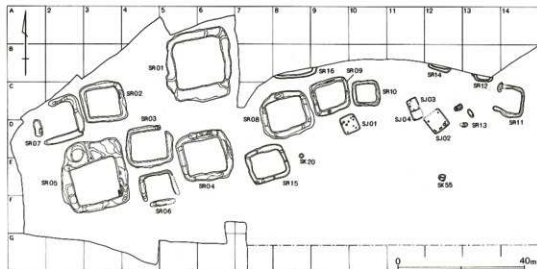
C・D-9・10区に位置し、北側に第9・10号方形周溝墓が近接する。第53号住居跡に南壁を切られているが、本住居の方が深いために規模は確定できる。形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5.46m、短軸5.06m、深さ24cmを測る。主軸方位はN-22°-Wを示す。

床面はほぼ平坦である。火災により焼失した住居跡と考えられ、床面には炭化材片が散在し、覆土中層以下、特に第3層には焼土と炭化物が多く含まれていた。覆土上層には部分的に土層の乱れがあり(第6層)、住居埋没後に擾乱を受けた様相が窺える。

炉跡は住居中央やや北寄りに設けられる。形態は楕円形で、規模は長径54cm、短径34cmを測る。底面が皿状に凹む床炉で、南側には棒状礫を2個配した炉石が埋設されていた。

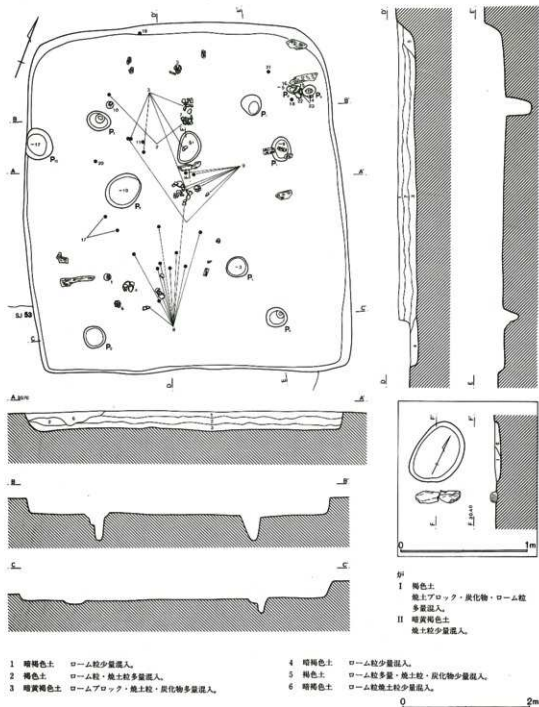
ビットは10本検出された。このうち、P₁~P₄が主柱穴に相当するものと考えたが、P₂・P₃は南壁に寄った位置にあり、深度が浅いことから疑問がないわけではない。P₅~P₇は伴う可能性があるが、どれも深度が浅いため柱穴としての機能には疑問符がつく。P₈~P₁₀については後世の掘り込みと考えられる。貯蔵穴、壁溝は確認されなかった。

出土遺物は少なく、壺、台付甕、高環が床面、または覆土でも中層以下から出土した(第10図1~10)。ロクロ整形の土師質土器(第11図11)と瓦(12~23)は床から20cm前後浮いた位置から出土したものが多く、直接遺構に伴うものではない。一部床面の高さから出土しているが、P₂・P₃内に落ち込んだものと理解できる。瓦は総数17点出土しているが、散在的で特にまとまる様相はみられない。3点を除き特異な小形製品である。図示した以外に灰釉陶器の碗の胴部小片があるがやはり混入品である。

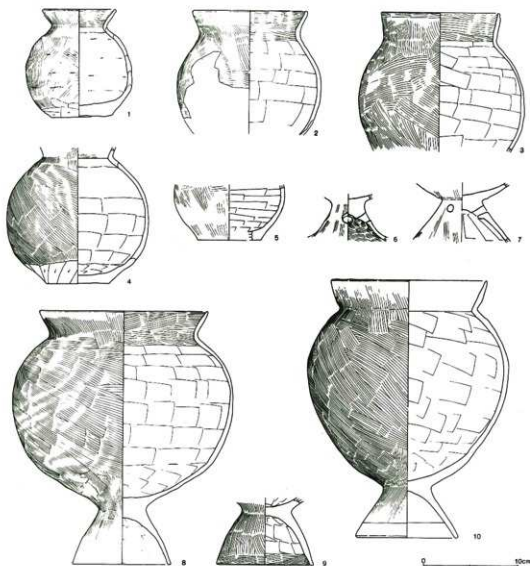


第9図 B区古墳時代前期の遺構配置図

第10図 1・4は外面刷毛目調整された小形壺で、胴部下端がへら削り。2・3はやや小形の台付壺か。口縁部は軽いナデ調整が加わる。6・7は高坏脚部。6は透穴4孔、7は3孔が穿たれる。7は坏部内面に赤彩されるが外面は不明である。8・9の台付壺口縁部外面には刷毛目後ナデ。



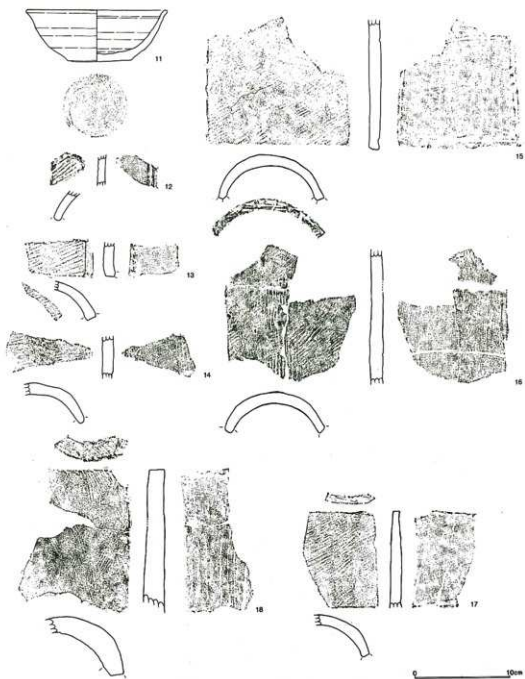
第10図 B区第1号住居跡



第10図 B区第1号住居跡出土遺物(1)

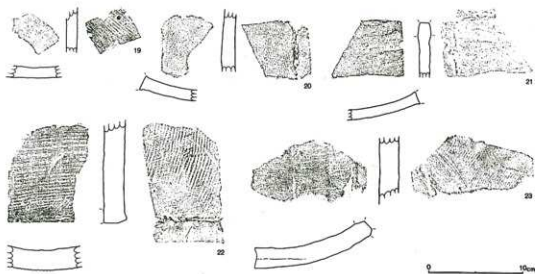
B区第1号住居跡出土遺物観察表(第10~12図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	7.4	11.3	6.4	ABCE	A	にぶい黄褐色	80%	No62 覆土
2	台付甕	(11.8)	12.9		AB	A	にぶい黄褐色	35%	No61, 47 覆土(+1~13cm)
3	台付甕	12.2	14.5		ABE	A	にぶい黄褐色	80%	No29, 30 覆土(0~+10cm)
4	小形壺		14.2	6.6	ABCE	A	にぶい黄褐色	60%	No81 床面
5	小形壺		5.8	6.6	A	A	にぶい黄褐色	55%	No57 覆土(+6cm)
6	高 環		4.8		ABC	A	にぶい黄褐色	80%	No83 床面
7	高 環		6.3		AC	A	にぶい黄褐色	60%	No61 床面 赤彩
8	台付甕	17.5	26.5	10.2	ABCE	A	にぶい黄褐色	70%	No82, 100, 105, 109他 覆土(0~+10cm)
9	台付甕	16.2	27.0	10.4	ACE	A	にぶい黄褐色	60%	No29, 89, 93, 96, 95他 覆土(+1~10cm)
10	台付甕		7.0	9.6	ABC	A	にぶい黄褐色	95%	No62 床面
11	環	14.5	5.4	6.8	AC	A	灰褐色	75%	No28 覆土(+20cm)



第11図 B区第1号住居跡出土遺物(2)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
12	丸瓦				ABC	A	淡黄		覆土
13	丸瓦				ABC	A	淡黄		覆土
14	丸瓦				ABC	A	淡黄		No51 床面
15	丸瓦				ABC	A	淡黄		No8 覆土(+16cm)
16	丸瓦				ABC	A	淡黄		SJ76-No.49床面と SJ78-No.79地覆土接合



第12図 B区第1号住居跡出土遺物(3)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	調	残存	出土位置・その他
17	丸瓦				ABC	A	灰		No.32,33 覆土(+18-24cm)
18	丸瓦				ABC	A	灰白		No.48 床面
19	平瓦				ABC	B	灰白		No.26 覆土(+16cm)
20	平瓦				ABC	B	灰白		No.31 覆土(+19cm)
21	平瓦				ABC	A	緑灰		No.4 覆土(+17cm)
22	平瓦				ABC	C	にがい難		No.7 覆土(+18cm)
23	平瓦				ABC	C	淡黄		No.50 床面

第2号住居跡(第13図)

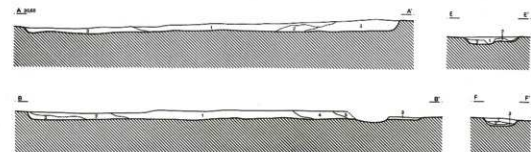
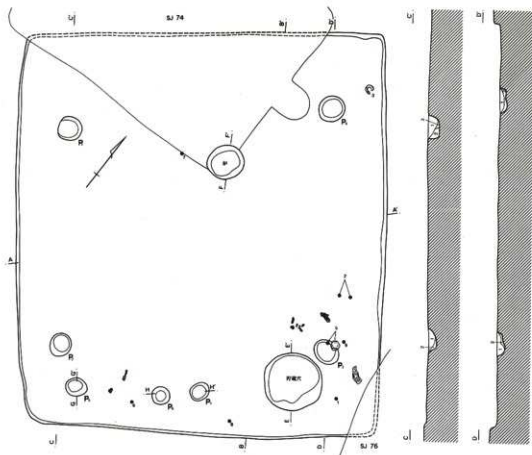
C・D-11・12区に位置する。第74・76号住居跡に切られているが、規模はほぼ確定できる。形態は整った方形を呈し、規模は長軸6.30m、短軸5.86m、深さ14cmを測る。主軸方位はN-38°-Wを示す。

床面は住居北西側が残存しない。他は概ね平坦である。覆土の堆積環境は不明であるが、床面に炭化材片が散在し焼失住居であった可能性も否定できない。

炉跡は住居中央やや北寄りに設けられる。径54cmの円形を呈し、皿状に凹む。覆土には焼土とローム粒子が含まれていた。ピットは7本検出された。P₁-P₄が主柱穴と考えられるが、深度が浅い。P₅-P₇については出入り口部に関係する施設かもしれない。貯藏穴は南壁際の東コーナーに寄った位置に設置される。径90cm前後の円形を呈し、深さ12cmを測る。壁溝は存在しない。

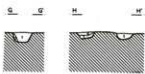
出土遺物は少ないが、壺類、小形鉢、台付甕、小形高坏の各器種がある(第14図1-9)。このうち、1・3・5・7・8は床面出土、4は貯藏穴内から出土した。須恵器環(10)は覆土から出土し明らかに混入品である。

壺類は何れも刷毛目調整され、1の小形壺は口縁部に小孔が2個穿たれている。3の複合口縁壺は頸部が「く」の字状に屈曲し有段部も刷毛目調整される。4は広口壺であろう。6の小形鉢は体部刷毛目調整後ナデられている。



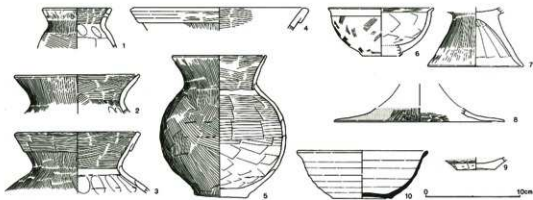
- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 2 深褐色土 ローム粒多く含む微量の焼土粒混じり。
- 3 暗褐色土 1層よりも色調暗いローム粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームアブロックを含む微量の焼土粒・炭化物混じり。
- 5 暗褐色土 ローム粒少量。焼土粒・焼土小アブロック多く含む。

- イ層
- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒を多く含む。
 - 2 暗褐色土 深1-2cm下の焼土アブロック・焼土粒を多量に含む。
 - 3 明黄褐色土 (ピット)
 - 1 暗褐色土 少量のローム粒・焼土粒・炭化物含む。
 - 2 暗黄褐色土 かなりローム質土。暗褐色混じりで粘性しまり焼。
 - 3 黒褐色土 少量のローム粒含む。
 - 4 暗黄褐色土 ロームアブロック主体層。



0 2m

第13図 B区第2号住居跡



第14図 B区第2号住居跡出土遺物

B区第2号住居跡出土遺物観察表(第14図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	(7.0)	4.2		ABC	A	におい	25%	No60 床面
2	壺	(13.0)	4.1		ABC	A	黄褐色	25%	No13, 15 覆土(+8cm)
3	壺	12.6	6.4		ABE	A	におい	70%	No1 床面
4	壺	(18.0)	2.4		ABCE	A	におい	5%	No4 貯穴内覆土
5	壺	(9.6)	14.9	5.6	ABC	A	におい	90%	No50, 52 床面
6	鉢	(11.0)	5.1	(4.0)	ABC	A	橙	20%	No62 覆土(+5cm)
7	台付甕		6.2	9.8	ABCE	A	におい	90%	No3 床面
8	高 杯		1.5	(18.0)	ABC	A	におい	10%	No35 床面 赤彩
9	壺		1.3	4.0	ABCE	A	におい	50%	No49 覆土(+4cm) 赤彩
10	杯	(13.6)	5.0	6.2	ABCE	D	におい	50%	覆土 底部完存

第3号住居跡(第16図)

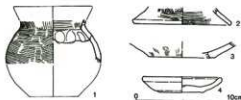
C-11区に位置する。第4号住居跡及び第73号住居跡と重複するが、断面観察によれば前者よりも新しく後者よりも古いものと考えられる。また、第18号土壌による攪乱を受けており遺存状態はあまりよくない。形態は長方形を呈し、規模は長軸3.66m、短軸3.24m、深さは残りのよいところでも10cmに満たない。該期としては比較的小形の住居跡である。主軸方位はN-26°-Wを示す。

床面はやや凹凸を有する。覆土の堆積状況は壁高が浅いために明確にはできないが、ロームの含有量が多く完全な自然堆積とは思われない。

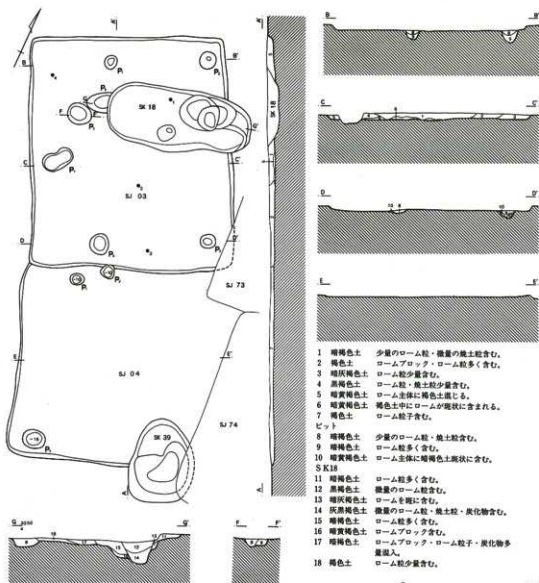
炉跡は現状では残存しない。位置的にみると、第18号土壌によって破壊されたものと考えられることもできる。貯蔵穴は確認されなかった。

ピットは7本検出されたが、支柱穴は明確ではない。P₁~P₄をそれぞれとすると、柱穴配置が壁際に寄り過ぎ、またP₃の深度が浅いという難点がある。P₇については確実に後世の掘り込みで、P₅・P₆は住居に伴う可能性はあるが少なくとも柱穴とはならない。

出土遺物は極めて少ないうえ、すべて小片で器形の判明する資料はない(第15図1~4)。住



第15図 B区第3号住居跡出土遺物



第16図 B区第3・4号住居跡

居に伴うと考えられる遺物は1～3である。1は刷毛目調整の小形壺と思われ、18号土壌内に落ち込んだ状態で検出された。2は小形器台の脚部と推定される破片で外面刷毛目調整後ミガキを施す。3は壺底部、4は中世の土師質小皿で明らかに混入品である。

B区第3号住居跡出土遺物観察表(第15図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形壺		4.6		ABC	A	ぶい黄橙	25%	No3 覆土(+6cm)
2	小形器台		1.8	(10.0)	AB	A	ぶい黄	10%	No18 床面
3	壺		1.7	(7.0)	ABC	A	ぶい黄橙	15%	No11 覆土(+4cm)
4	小皿	8.1	1.7	4.7	AB	A	橙	70%	No4 覆土(+8cm) 混入

第4号住居跡(第16図)

C-11区に位置する。第3号住居跡の南側に壁ラインをほぼそろえて重複する。住居東側は第73・74号住居跡、南壁部は第39号土壌が重複し、何れの遺構よりも本住居が古い。正確な規模は不明であるが、形態は方形もしくは長方形を呈するものと推定される。規模は残存値で長軸3.54m、短軸3.04m、深さは約3cmと非常に浅い。主軸方位は西壁を基準にするとN-20°-Wを示す。

床面はほぼ平坦で、重複する第3号住居跡とは段差がみられずに移行する。覆土はローム混じりの褐色土で構成されるが、壁高が浅いために堆積状況は不明とせざるを得ない。

ピットは3本検出されているが、住居に伴う可能性は低い。その他、炉跡や貯蔵穴等の付属施設も確認されておらず、通常の住居とするには問題も残る。

出土遺物は土師器壺底部小片と甕胴部片があるのみで、時期を限定するには材料不足である。重複関係から第3号住居跡よりも古いが、主軸が近く壁ラインがほぼ揃うこと、また、弥生時代後期の住居跡が確認されていないことからみて、時期的に大きく隔たることはないであろう。

(2) 方形周溝墓

B区では16基の方形周溝墓が検出され、狭長な調査区の北側の台地縁辺に沿って帯状に分布する。調査によって墓域が完全に把握されたわけではなく、調査区中央北側に残される未調査区と調査区西側に延びる同一台地上にも、周溝墓の存在することは十分予想される。沖積地に面した台地縁辺部を東に辿ると中耕遺跡、広面遺跡が所在し、やはり多数の周溝墓群が検出されている。中耕・広面遺跡を一方の核とすれば、稲荷前遺跡B・C区をもう一つの中心と見ることができ、B区は稲荷前グループの一支群として位置付けられるものと考えられる。

16基の周溝墓中、完掘できたものは13基ある。形態は周溝が全周するタイプが8基、周溝の一隅が切れるものが2基、1辺が独立し、他の3辺が「コ」の字状に連結するもの2基、四隅切れの可能性をもつもの1基となり、四隅切れの周溝墓が少なく、全周型系統が主体となることはB区の特徴といえよう。また、全周型に含めたが、第5号周溝墓は北溝中央にブリッジ状の高まりを作り出しており、前方後方形周溝墓の一種と捉えることもできる。各周溝墓は相互に近接して構築されるものが多いが、直接的に切り合い関係を有するものは存在しない。また、近接した時期と思われる4軒の住居跡とも重複するものは見られなかった。方台部盛土の遺存する例は皆無である。墓域の大部分は古墳時代後期以降の集落域と重なり、ほとんどの周溝墓では周溝上部に住居跡が進出している。重複住居の年代から7世紀～8世紀頃までには周溝は埋没していたと考えられる。墓域としての意識も既に失われていたものであろう。第10号周溝墓には9世紀段階の住居跡が、第16号周溝墓では7世紀段階の住居跡がそれぞれ方台部に大部分掛かる形で検出され、おそらく住居跡が方台部内に営まれる段階までには墳丘が削平、或いは崩壊したものと推定されるが、他の周溝墓、特に規模の大きい周溝墓であっても方台部内に納まる住居跡の検出例はなく、墳丘盛土がいつまで残存したのかについては決定的な証拠は見出せなかった。盛土の規模や位置、後世の土地利用形態によって異なる場合があったと考えた方が自然かもしれない。現状では墓域全体の盛土が消滅するのは、方台部に溝跡が掘削される中世段階以前とするしかなさそうである。

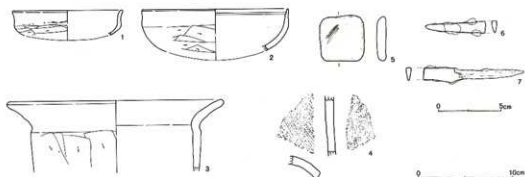
B区第1号方形周溝墓(第18図)

調査区北西寄りのA-C-5~7区に位置する。B区でも最大規模の周溝墓であるが、残念ながら上部は削平され、遺存状態は極めて悪い。また、東溝外縁部には第22号住居跡が僅かに掛かっていた。平面形態は全周型で、方台部上面の形状は方形に近いが各辺に歪みが見られた。また、方台部の各コーナーは丸みをもっている。方台部の規模は東西長15.28m、南北長14.96mを測り僅かに東西に長い。主軸方位はN-9°-Wを示す。

周溝外縁部は北溝が比較的整った形態を示すが、他の溝では歪みが激しく溝幅も一定しない。特に南溝が際立って幅広く掘削されていた。底面はローム層下の砂礫漸移層に達しているため凹凸が比較的顕著に見られた。溝深度は南北の周溝は比較的深く、東西のそれは浅い。壁の立上りは基本的に逆台形で、方台部側の立上がり角度は外縁部側に比してより鋭い傾向が認められた。周溝規模は北溝が最大幅2.76m、深さ0.40m、東溝が最大幅2.80m、深さ0.20m、南溝が最大幅5.00m、深さ0.50m、西溝が最大幅3.28m、深さ0.25mを測る。

周溝深度が浅いこともあり、覆土の様相を明確に捉えることはできなかった。第3層は方台部盛土に由来する一次堆積土と推定される。第1層及び2層には小礫が多量に含まれていた。礫層そのものは周溝基底面以下に堆積するもので、その多くは盛土の崩壊に伴って流入したと見るのが自然かもしれない。

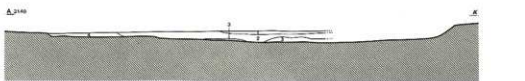
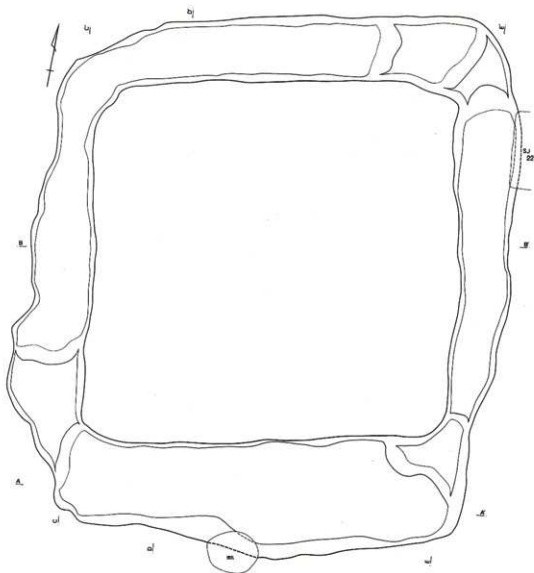
出土物は極めて少なく、確実に本周溝墓に帰属すると思われる遺物は皆無であった。第17図は全て混入遺物と考えられる。1~3は7世紀段階と推定される土師器坏と甕。4は須恵質の小形瓦で凸面平行叩き、凹面は布目(1cmあたり経9本、緯10本)。5は方形の板状石製品。表面と側面を磨って平滑に仕上げ、裏面は自然面を残す。6・7は刀子。



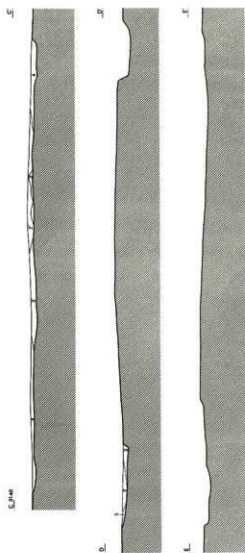
第17図 B区第1号方形周溝墓出土遺物

B区第1号方形周溝墓出土遺物観察表(第17図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	産成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.4)	2.6		ABC	B	褐灰	25%	北溝覆土 椀・椀坏 無彩
2	甕	(15.4)	4.4		AC	A	灰褐	10%	北溝覆土 無彩
3	甕	(22.2)	7.5		ACJ	C	橙	10%	北溝覆土
4	丸瓦				AC	A	灰		北溝覆土 須恵質の小型瓦
5	石製品								北溝 縦4.8,横4.7,厚さ1cm
6	刀子								北溝覆土 残長4.8,幅1.9,厚さ0.4cm
7	刀子								東溝 残長8.0,最大幅1.2,厚さ0.4cm



第10图 B区第1号方形周溝基



- 1 暗茶褐色土 ローム粒子・焼土粒子を比較的多量に含む。炭化物粒子少量混じる。
- 2 暗褐色土 色調はやや褐色味が強い。小礫をやや多く、ローム粒子、焼土粒子を少量混入する。
- 2' 暗褐色土 2層類似。小礫の混入量が多く、一部に擾乱を受ける。
- 3 暗黄褐色土 くすんだ色調のロームブロック・ローム粒子を主体とし、暗褐色土がブロック状に混入する。
- 3' 暗黄褐色土 3層に類似。焼土粒子を少量混入する。
- 4 暗黄褐色土 多量のローム粒子を含み、部分的に黒褐色土がブロック状に混じる。
- 5 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。

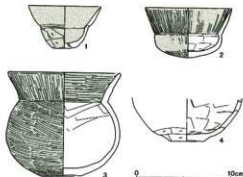
0 10cm

B区第2号方形周溝墓(第20図)

調査区北西部のC・D-2～4区にあり、西側に第7号周溝墓が隣接し、南側に第3号、5号周溝墓が位置する。西周溝は第15号住居跡、方台部東辺上は第15号土墳、南周溝外縁は土墳群(SX01)の攪乱を受けていた。平面形態は全周型に属し、方台部は南東コーナーが外に張り出すため東辺と南辺に歪みがみられ、全体的には台形状を呈する。方台部の規模は東西長10.20m、南北長9.20m、主軸方位は西辺を基軸に据えるとN-11°-Wを示す。

周溝は全周するが、北東コーナーが極めて浅く、確認面が現状よりも10cm低ければ一隅に陸橋部をもつ形態と認識されたであろう。周溝幅はほぼ一定で、あまり大きな差はない。南溝の底面はかなり凹凸が顕著で一定した面を形成していない。底面は深度の浅い北東コーナーから東溝北半部が礫層に達し、その他の部分はローム層中に留まっていた。周溝規模は北溝が幅2.12m、深さ0.72m、東溝が幅1.96m、深さ0.65m、南溝が幅2.00m、深さ0.60m、西溝が幅1.72m、深さ0.40mを測る。

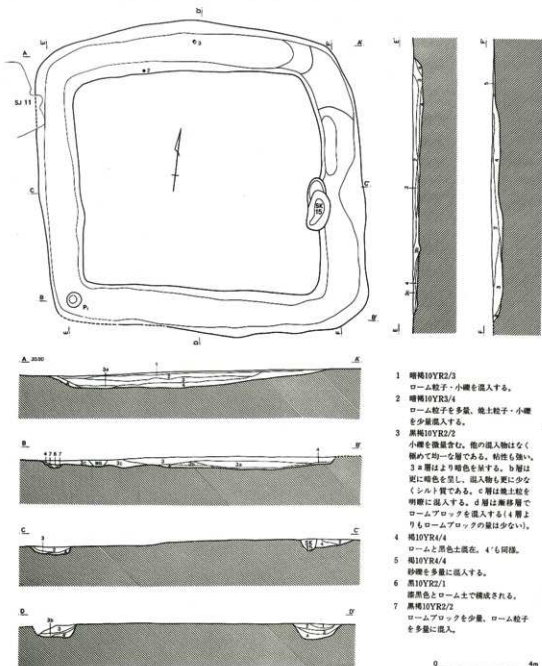
周溝覆土は基本的に5層に分かれる。第4層はローム混じりの黒色土で、堆積状態から方台部側盛土の崩落した第一次堆積土と考えられる。その後堆積する第3層には混入物があまり含まれず、比較的長期にわたって堆積が進んだものと推定される。



第19図 B区第2号方形周溝墓出土遺物

Ｂ区第２号方形周溝墓出土物観察表(第19図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形埴	(7.6)	4.4	2.0	ABC J	B	橙	45%	東溝覆土 赤彩は部分的に残る
2	小形埴	9.1	5.2		ABCE	A	橙	100%	北溝覆土中層 体部整形不明瞭 赤彩
3	小形壺	11.8	10.9	4.0	ABC	A	にじみ黄	95%	No.1 北溝覆土(+15cm) 赤彩
4	小形壺		5.1	3.6	ABC J	B	浅黄橙	80%	西溝覆土上層(+22cm) 外面風化

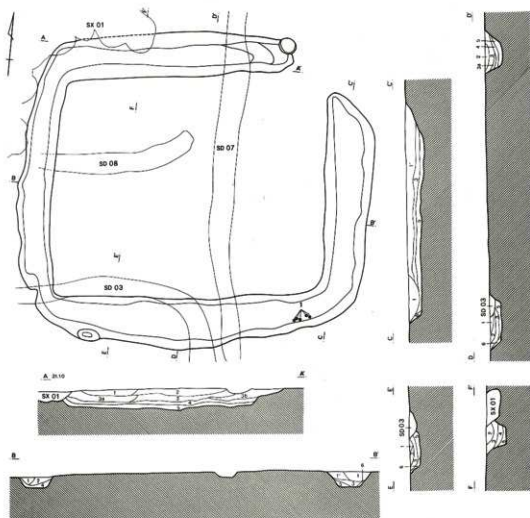


第20図 B区第2号方形周溝墓

出土遺物は小形の埴と壺が4点検出された。第19図1は小形埴で、底部は凹んでいる。風化が進みヘラミガキ痕は不明瞭、部分的に赤彩痕残る。体部下位はヘラケズリと思われる。東溝覆土出土。2は完形の小形丸底壺で、北溝覆土中層から出土。口縁下に弱い段が付き、口縁部及び体部外面は赤彩される。3は北溝中央部から出土した埴で、赤彩される。4は西溝外縁部の肩部分近から出土した小形壺の底部片。風化により胴部整形は不明瞭である。

B区第3号方形周溝墓(第21図)

調査区北西寄りのD・E-4・5区にあり、周囲には第1・2・4～6号周溝墓が取り囲むように分布



- 1 黒陶10YR3/1 ローム粒子をほとんど混入せず、比較的均一な層である。1層はローム粒子を僅かに含む1層に類似する。
- 2 にか貫陶10YR4/3 ロームブロックを主体とする。
- 3 黒10YR2/1 ローム粒子を少量混入。3 a層はローム粒子の量が多い。3 b層は砂礫を混入する。
- 4 黒陶10YR3/3 ロームブロックを多量に混入する。
- 5 黒陶10YR2/2 4層に粒子の細かい黒色土が塊状に混じる。5層の方がロームブロックの量が多い。
- 6 黒陶10YR2/3 褐色化したロームブロックを混入する。

第21図 B区第3号方形周溝墓

していた。周溝及び方台部は性格不明の土壌群(SX01)や中世の溝跡による攪乱を受けているが、掘り込みが深いために遺存状態は比較的良好であった。平面形態は北東コーナーに陸橋部を残すタイプである。方台部は東西に長軸をもつ長方形を呈し、上面の規模は東西長11.48m、南北長9.28m、主軸方位はN-5°-Wを示す。

周溝幅には極端な差はなく、外縁部は南溝及び西溝の中央部が外側に張り出し気味となっている。底面は小さな凹凸は随所に認められるが、境内土壌と思われるような凹みは検出されなかった。溝の横断面形は総じて逆台形を呈し、方台部側、外縁部側共に壁の立上

がりは鋭い。溝の規模は北溝が幅1.84m、深さ0.97m、東溝が幅2.04m、深さ0.80m、南溝が幅2.16m、深さ0.60m、西溝が幅1.44m、深さ0.52mである。

周溝覆土は大きく6層に分かれる。第4層及び5層はロームブロックを多量に含み、内区から埋没した状況が窺われ、方台部盛土に起因する堆積土と考えられる。覆土最上層に堆積する第1層及び1'層はロームの混入が極めて少ない黒色土で、比較的安定した環境下で自然に堆積したものと推定される。

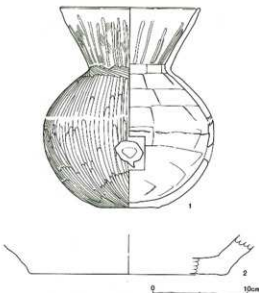
陸橋部は全周型の一隅が浅いために陸橋部をもつかのようにみえるものとは異なり、両端の溝深度が深いことからみて、築造当初から意識的に形成されたものと考えられる。幅は2.08mで北東に開いている。

出土遺物は極めて少なく、周溝墓に伴う可能性をもつものは図示した埴以外には幅狭の複合口縁を有する壺が1点あるのみである。

第22図1は埴で、南溝の東コーナー付近から出土した。推定口径14.6cm、器高21.0cm、底径6.6cm。胎土に石英、白色粒子、白色針状物質を含み、焼成は良好。色調は浅黄橙で約80%残存。口縁部と胴部外面はヘラミガキで、一部刷毛目が残る。また、胴部中位には内側から外側に向かって焼成後の穿孔が施されていた。底面から35cm浮いたレベルから出土。註記No.1~5。2は常滑系の甕底部でおそらく溝跡に伴う遺物と思われる。底径20.4cmで約15%残存する。周溝覆土出土。

B区第4号方形周溝墓(第24図)

調査区西寄りのD・E-5・6区にあり、北側に第1号、西側に第6・7号、東側に15号周溝墓が近接する。周溝墓上面には第27号・第34~37号住居跡が構築されており、部分的に攪乱を受けていた。形態は全周型で、方台部は概ね長方形としてよいが、南東コーナーが外に張り出すために東辺は中央が膨らみ、南辺は全体に東に向かって開き気味となっていた。方台部の規模は東西長が12.40m、

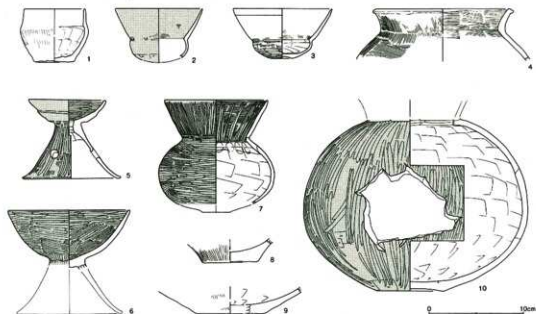


第22図 B区第3号方形周溝墓出土遺物

南北長は中軸線上で10.68m、主軸方位はN-12°-Wを示す。

周溝外縁部は西溝が直線のだが、他の周溝では中央が若干幅広く、全体にやや弧状を呈していた。底面は凹凸が比較的顕著に見られ、北溝と西溝は中央付近が長楕円形の土塊状に凹んでいた。深さは東溝と南溝が浅く、西溝と北溝が深い傾向にある。周溝の横断面形は総じて逆台形を呈する。周溝の規模は北溝が最大幅2.88m、深さ0.92m、東溝が幅2.52m、深さ0.50m、南溝が幅2.40m、深さ0.40m、西溝が幅2.28m、深さ0.72mを測る。

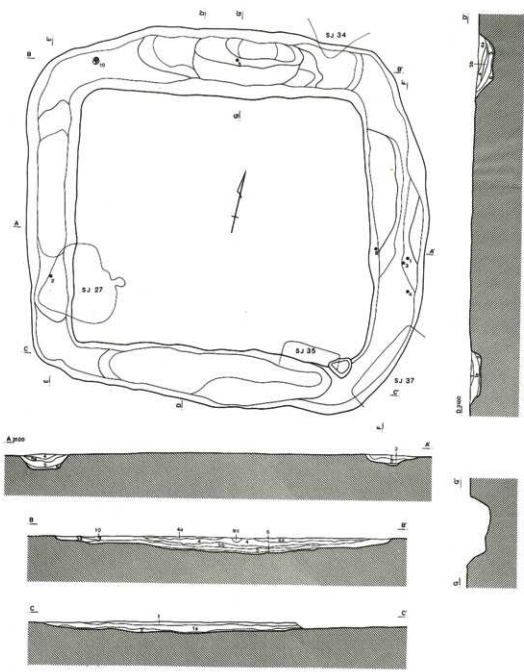
周溝覆土は基本的に7層に分かれる。溝毎に堆積状況はやや異なり、南溝には小礫の混入が目立った。第3層、6層が方台部盛土に由来する第一次堆積土と思われ、第4層を除く他層についても概ね自然堆積によるものと推定される。第4層は北溝と西溝の最上層に堆積していた。土質は地山かとも思われる未風化の褐色土で、混入物をほとんど含まないことから方台部盛土から崩落したもとは考え難い。堆積要因は不明である。



第23図 B区第4号方形周溝基出土遺物

B区第4号方形周溝基出土遺物観察表(第23図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形鉢	6.4	5.6	4.4	AC	A	にぶい青	35%	No8 東溝墳底 無彩
2	小形埴	9.2	5.4		ABEJ	C	浅黄橙	70%	No1 西溝覆土下層(+5cm) 赤彩
3	小形埴	10.4	5.2	2.0	ACE	A	にぶい青	60%	No12 東溝覆土下層(+13cm) 無彩
4	甕	14.0	5.5		ACE	A	橙	20%	No9 東溝墳底
5	小形器台	8.0	8.3	10.2	ACE	A	浅黄橙	80%	No3 北溝(+7cm) 赤彩 透孔は3ヶ所
6	高 埴	12.8	6.2		ABCE	A	にぶい青	95%	覆土 赤彩 口縁部内外面へラミガキ
7	埴	10.8	10.9		ABC	A	にぶい青	70%	東溝覆土 赤彩 底部穿孔の有無不明
8	壺		2.4	(5.7)	ABC	A	橙	25%	No10 東溝覆土上層
9	壺		2.8	(7.0)	AB	A	橙	30%	南溝覆土
10	壺		18.0	(7.0)	AB	A	浅黄橙	100%	No2 北溝下層(+10cm) 赤彩痕残る

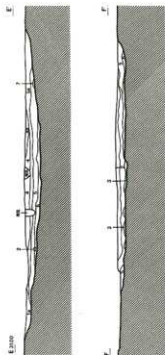


- 1 黒縄10YR2/3 小礫を多量に混入する。1a層はより暗色を呈する。堆土粒子も概少量混入する。
- 2 黒縄10YR3/2 小礫を主体に構成する。
- 3 黒縄10YR3/3 比較的大きなローム(粘土)をブロック状に混入する。
- 4 暗赤縄10YR3/4 地山(黒10YR4/6)がそのまま埋没したような土で混入物はほとんど含まずよりはりは極めて強い。4a層は完全に黒色土粒子を混入。

- 5 黒10YR2/1 黒色土中にローム微粒子を少量含みしよりは弱い。5a・5b層はロームブロックを混入。
- 6 黒縄10YR2/2 地山の粘質ロームをブロック状に混入する。これは覆土との同化が進行し斑点状となる。
- 7 暗赤縄10YR3/3 黒褐色土中に赤色物を混入。「朱」か。

0 4m

第24図 B区第4号方形周溝基

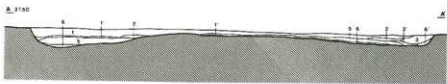
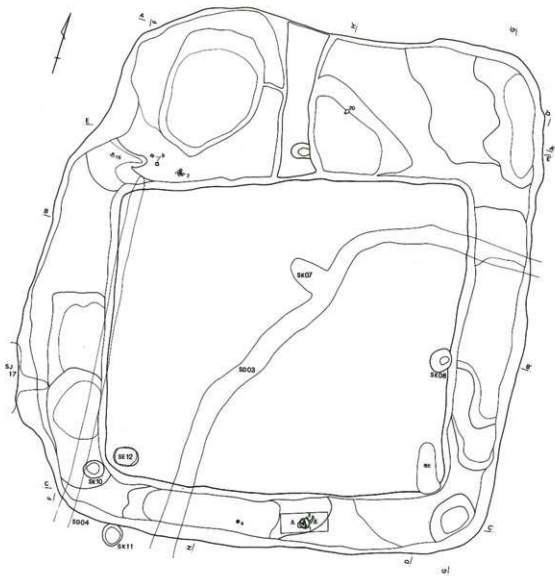


出土遺物は少なく、器種としては小形鉢(第23図1)、小形埴(2・3)、甕(4)、小形器台(5)、小形高坏(6)、埴(7)、壺(8~10)がある。出土位置の判明するものは全て覆土下層から検出されている。1は小形の鉢。口縁部はヨコナデされ、体部は刷毛目調整、下半はナデ。2は底部を欠く。風化が著しく調整は不明瞭。赤彩痕は僅かに残る。3は口縁に比して体部が小さい。底部は上げ底。口縁部はヨコナデされ、赤彩は施されない。4は口縁部が「く」の字状に折れ口唇部に平坦面を作る。外面は刷毛目で一部ナデ消す。5の小形器台は北溝最下層から出土した。受部外面は風化により調整不明瞭である。6の小形高坏は口縁部が碗状に開く。7の埴は刷毛目後へラミガキ調整される。底部全体を欠く。10の壺は口縁部を欠く。底部は充存。胴部中位の孔は内部から外面に向かって穿たれており、焼成後、故意に穿孔された可能性もある。

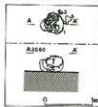
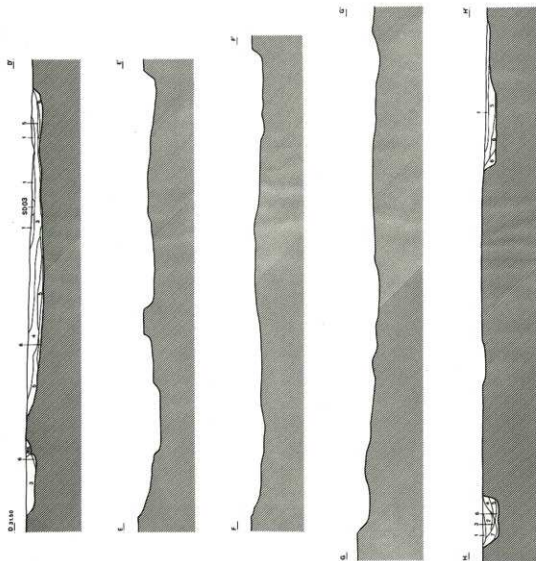
B区第5号方形周溝墓(第25・26図)

D-F-2~4区にあり、第7号周溝墓と共に周溝墓群の中で最も西寄りに位置する。北溝上面は土壌群(SX01)に削平されていた。また、17号住居跡、12号井戸跡や溝、土壌の攪乱を受け遺存状態はあまり良いとはいえない。形態は全周型で、方台部は方形というよりも平行四辺形状に歪んでいる。南辺は中央部が外に張り出し気味となっていた。方台部の規模は東西長13.80m、南北長13.28mを測り、B区の周溝墓中、第1号周溝墓に次いで規模が大きい。主軸方位は北辺に直交するラインに求めるとN-18°-Wを示す。

周溝は東溝と南溝がほぼ一定の幅であるのに対し、西溝は外縁部が部分的に膨らみ、北溝は他の溝に比して非常に幅広く、北西コーナーはやや括れていた。底面は全体に凹凸が激しく一定しない。特に北溝では方台部直下の左右が土壌状に深く掘り込まれ、結果的に中央部がブリッジ状の高まりとなって残されていた。このブリッジ状の高まりは方台部にほぼ直角に取り付き、北溝外縁部に向かって延びている。ブリッジ上面と方台部との段差は10~15cm、ブリッジ幅は60~80cmを測る。確認面が現状よりも20cm低ければ前方後方形周溝墓と認識されたに相違なく、北溝の広さとブリッジ状の高まりを積極的に評価すれば、前方後方形周溝墓、またはその亜種として把握することもでき



第25图 B区第5号方形周清墓(1)



- 1 褐色土 比較的均一な層で、ロームの混入は少ない。1'はより暗色を呈し、白色粘土を一部混入する。
- 2 褐色土 ローム粒子混入する。
- 3 暗褐色土 ローム粒子多量に混入。3'はよりローム粒子の混入量が多い。
- 4 黄褐色土 ロームブロックを多量混入する。
- 5 黒褐色土 暗黒土で部分的にロームブロックとローム粒を混入する。シルト質。
- 6 黄褐色土 ロームブロックを多量に混入する。6'はロームブロックの混入量が極めて多い。
- 7 暗褐色土 ローム粒子微量混入。



第26図 B区第5号方形周溝墓(2)

よう。周溝横断面形は逆台形で、総じて方台部側の方が外縁部に比して鋭く立上がる傾向にある。周溝規模は北溝が最大幅7.48m、深さ0.90m、東溝が最大幅3.00m、深さ0.75m、南溝が最大幅2.52m、深さ0.82m、西溝が最大幅3.76m、深さ0.58mである。

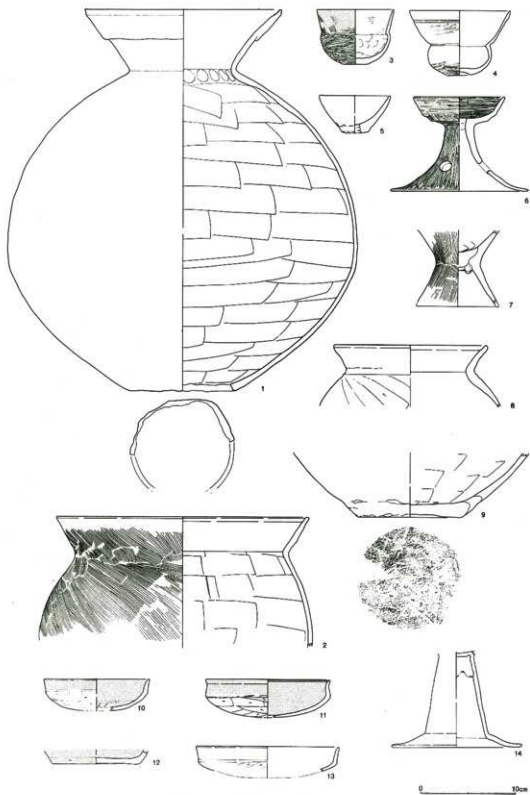
覆土は8層に分かれる。第1層中には7世紀から8世紀、一部は9世紀代の土器が多量に含まれていた。特に遺構が切り込んでいるという状況は認められず、周溝の一部は9世紀頃まで窪地として残っていた可能性がある。基本的に第一次堆積層はロームが多量に含まれること、方台部側から流入していることから方台部盛土の崩落土と推定される。

出土遺物は壺、小形埴、小形鉢?、小形器台、台付甕、高坏の他、第1層及び重複遺構から出土した古墳時代後期以降の土器がある(第27・28図)。周溝墓に伴う可能性のある土器は主に南溝から出土し、北溝のブリッジ部の周囲からは検出されなかった。第27図1の壺と3・4の小形埴、6の小形器台は南溝から出土した。

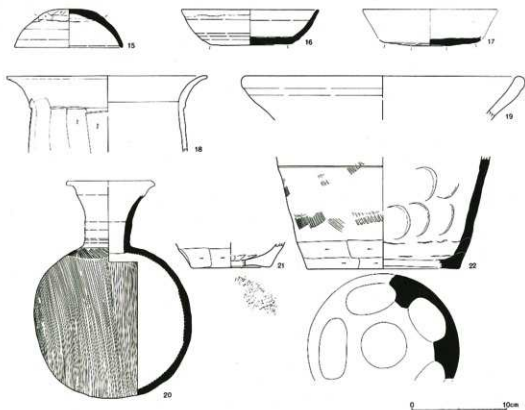
第27図1は南溝底面から出土した複合口縁の壺で、底部は焼成後、筒抜け状に穿孔されていた。全体に風化が激しく外面の調整は不明。2の甕は口縁から胴部にかけて刷毛目整形、口縁部上半はヨコナデにより刷毛目を消している。3・4は小形埴で、前者は口縁部が直立気味、後者の口縁部は大きく開き、一条の沈線が巡る。7は台付甕か。脚部は矮小化している。14の高坏は器壁が薄く裾部は強く屈曲する。12は土師器坏か。底部及び体部下端は回転ヘラケズリされ、内外面、底面は赤彩。胎土には白色針状物質が多量に含まれる。15は須恵器蓋で、天井部は手持ちヘラケズリ、口唇部は内傾する面をもつ。20は北溝第1層出土のフラスコ形瓶。南比企窯跡群産である。

B区第5号方形周溝墓出土遺物観察表(第25・26図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	20.7	40.0		ABC J	C	いぶき	70%	No4 南溝墳底 底部穿孔
2	甕	26.4	13.7		A E J	B	浅黄橙	60%	No10 北溝墳底
3	小形埴	(8.0)	5.7	2.5	ABC	A	橙	50%	No3 南溝覆土(+10cm) 赤彩外面のみ
4	小形埴	10.4	6.8	2.3	ABC	B	橙	90%	No5 南溝覆土(+25cm) 底部上げ底
5	小形鉢	(7.4)	3.9	(2.8)	ABC	B	明黄褐	20%	南溝覆土 外面風化 内面ナデか
6	小形器台	9.4	6.0	14.1	AB	A	いぶき	60%	No6 南溝墳底 赤彩 全体に風化
7	台付甕		7.6		ABC	B	いぶき	40%	南溝覆土 脚部内面雑なナデ
8	壺	(16.0)	6.5		ABC	C	橙	20%	覆土 風化により整形不明瞭
9	壺		6.7	11.7	ABC	B	浅黄橙	70%	北溝墳底 底部木炭痕残る
10	坏	(11.0)	3.0		ABC	A	橙	40%	北溝覆土 赤彩
11	坏	(13.0)	4.0		ABC	A	いぶき	40%	北東隅部覆土 赤彩 沈線あり
12	盤状坏		1.5	9.0	AC	A	淡橙	60%	覆土 ロクロ整形 残存部全面赤彩
13	坏	(15.0)	2.6		AC	A	いぶき	10%	無彩 北溝覆土
14	高坏		10.0	(13.2)	AB J	C	橙	35%	北西隅部覆土 整形不明瞭
15	蓋	11.2	4.0		AB	B	灰	90%	西溝覆土 産地不明
16	坏	14.4	3.8	8.1	ABC	B	灰	80%	No2 北西隅部覆土上層(+40cm)
17	坏		0.9	9.4	ABC	A	灰	50%	覆土 底部中央糸切り痕残る
18	鉢	(21.0)	8.0		ABC	B	橙	30%	北溝北西隅部覆土
19	甕	(28.9)	4.6		A I	A	灰白	5%	北溝覆土 風化により整形不明瞭
20	フラスコ瓶		22.3		ABC	B	灰	95%	No1 北溝覆土(+17cm)
21	甕		2.6	(8.0)	ABC J	A	浅黄橙	35%	北溝覆土 底部木炭痕
22	瓶		11.7	(8.0)	ABC	B	灰白	25%	北溝覆土



第27图 B区第5号方形周满墓出土物(1)



第28図 B区第5号方形周溝墓出土遺物(2)

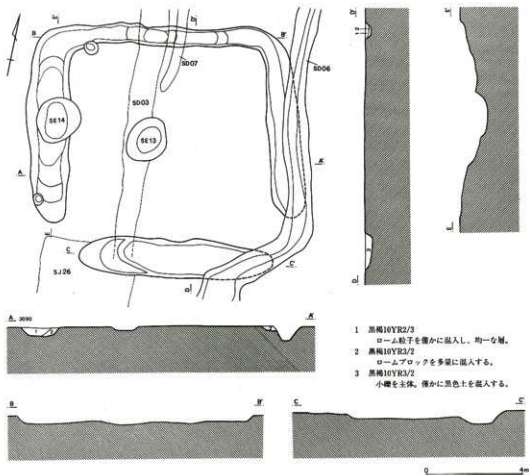
B区第6号方形周溝墓(第29図)

調査区西寄りのE・F-4・5区に位置し、東西及び北側に第3～5号周溝墓が近接して構築されていた。第26号住居跡を始め、井戸跡や溝跡の擾乱を受け遺存状態はあまり良くない。周溝形態は南西コーナーにブリッジをもつ。南東コーナーは第6号溝跡が周溝に沿うようにクランクしていたために正確な形態を捉えることはできなかったが、東溝方台部上面が丸みをもっていることから同様に溝が途切れる可能性がある。ここでは、一応南溝が独立し、南東コーナーと南西コーナーにブリッジをもつタイプと考えておきたい。方台部は方形を呈し、規模は東西長、南北長ともに8.04mと小形の周溝墓で、主軸方位はN-10°-Wを示す。

周溝は全体に幅狭で外縁部の膨らみはあまり目立たない。底面は中央部が一段深く掘り込まれている。横断面形は逆台形を基本とし、方台部側の立上りが外縁部に比してより鋭い傾向にある。周溝規模は北溝が幅1.00m、深さ0.35m、東溝が幅1.04m、深さ0.23m、南溝が残存長7.40m、幅1.64m、深さ0.30m、西溝が幅1.88m、深さ0.70mを測る。

周溝覆土は黒褐色土を基調としていた。深度が浅いために詳細な堆積環境は明らかにできないが、南溝には小礫が多量に混入していた。

出土遺物は検出されなかった。



第29図 B区第6号方形周溝墓

B区第7号方形周溝墓(第30図)

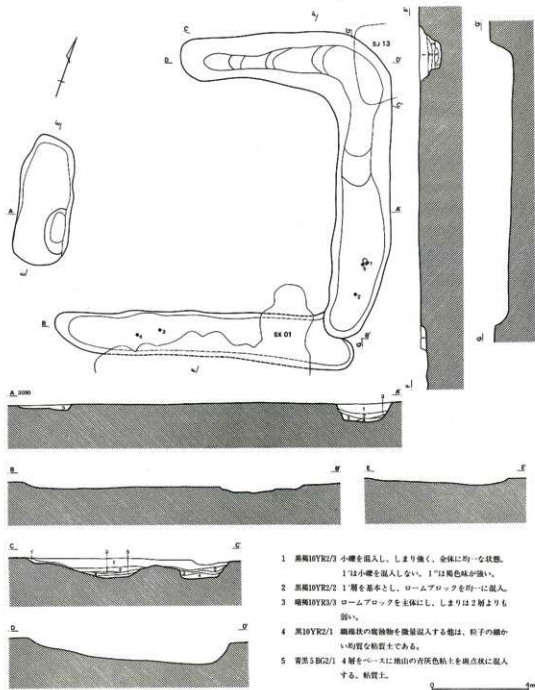
調査区西端のC・D-1～3区に位置し、東側1mには第2号周溝墓が隣接していた。北東コーナーは第11号住居跡、南溝上部は土壌群(SX01)に攪乱されていた。形態は一辺が独立し、3辺が「コ」の字状に連結するタイプで、方台部は東西に長軸を有する長方形を呈する。方台部の規模は東西長11.04m、南北長9.60m、主軸方位はN-19°-Wを示す。

周溝は北溝と東溝が概して深く、南溝と西溝が浅い。北東コーナーの方台部側にはテラス状の段差が認められたが、おそらく、壁が崩落したもので本来はこのテラスまでが方台部として機能したものと推定される。底面は全体としては比較的平坦である。但し北溝では段差が認められ、西溝の方台部直下には浅い土壌状の窪みが検出された。横断面は概ね逆台形を呈し、方台部寄りの壁の方が鋭く立上がる傾向にある。規模は北溝が幅2.00m(テラスから外縁部まで)、深さ1.00m、東溝が幅2.28m、深さ1.00m、南溝が幅2.28m、深さ0.25m、西溝が長さ5.48m、幅2.28m、深さ0.23mを測る。

周溝覆土は6層に分かれる。北溝から東溝の最下層には青灰色から黒色の有機質粘土が堆積して

おり、常時湛水するような環境だったのかもしれない。その上部には方台部盛土に起因すると思われるロームブロックを多量に含む第3層、第6層が堆積したものと考えられる。ただ、南溝の堆積土には小礫が多量に含まれ、他の溝の状況と同一には捉えられなかった。

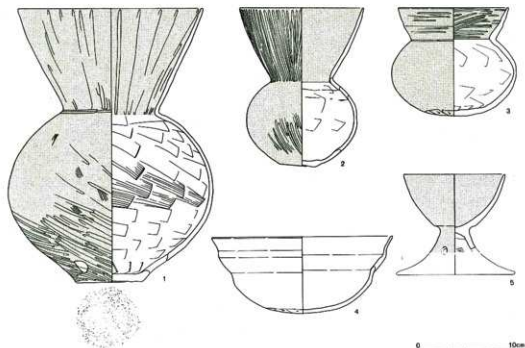
陸橋部は北溝の長さが極端に短いために北西側が5.80mと大きく空いていた。南西側の陸橋部の



第30図 B区第7号方形周溝基

幅は2.20mと比較的狭い。

出土遺物は少なく、埴、小形埴、屈曲口縁鉢、小形高杯が検出されている。第31図1・2・5は東溝南半の覆土下層～中層、3・4は南溝の覆土下層から出土した。1は平底の埴で、胴部下位に焼成後の穿孔と思われる小孔が穿たれていた。2はやや小形の埴で穿孔は施されない。3は小形の壺で口縁中位に弱い稜をもつ。器面が剥落し調整は不明瞭。4は屈曲口縁鉢で、体部は風化が激しく調整は不明瞭。5の高杯は口縁部が深く、下端部に稜を有する。脚部は欠失。風化が著しく調整は不明。



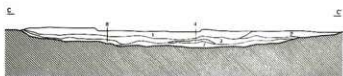
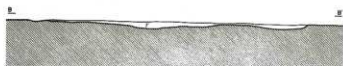
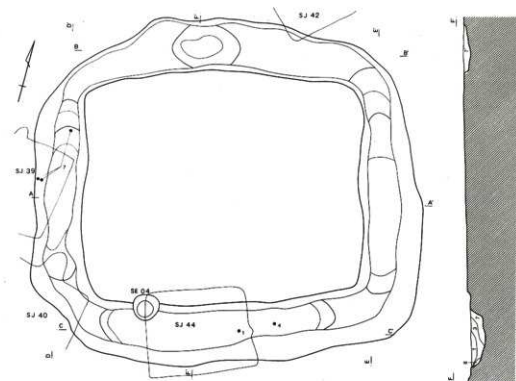
第31図 B区第7号方形周溝墓出土遺物

日区第7号方形周溝墓出土遺物観察表(第31図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	埴	19.4	29.7	6.8	ABCJ	B	黄橙	95%	No3 東溝覆土下層(+7cm) 赤彩
2	埴	13.0	16.6	3.7	ABC	B	橙	80%	No1 東溝覆土(+7cm) 赤彩
3	小形埴	11.5	11.4		ABC	B	橙	80%	No4 南溝覆土下層(+5cm) 赤彩
4	鉢	(19.0)	8.0		ABC	B	浅黄橙	80%	No5 南溝壙底 赤彩痕わずかに残る
5	小形高杯	10.6	8.2		ABCE	B	浅黄橙	75%	No2 東溝覆土(+18cm) 赤彩

B区第8号方形周溝墓(第32図)

調査区中央部のC・D-7～9区に位置する。北側に16号、東側に9号、南西側に15号周溝墓が近接して構築されていた。周溝から方台部は古墳時代後期と平安時代の4軒の住居跡及び第4号井戸跡の擾乱を受けていた。第42号住居跡の年代からみて、7世紀後半までには周溝は埋設していたと見てよいであろう。但し、方台部に掛かる住居跡は第44号住居跡のみで、方台部盛土が存在したか



- 1 暗褐色土 多量のローム粒子を含み、やや砂質が強い。
- 2 茶褐色土 多量のローム粒子と小礫が比較的多く含まれる。
- 3 暗褐色土 多量のローム粒子を含み、部分的に粒径の小さいロームブロックが嵩降り故に堆積する。
- 4 黄褐色土 砂質のロームブロックと暗褐色土、黒褐色土の混土层。少量のローム粒子と微量の焼土粒子を混入する。全体に砂質が強い。
- 5 黒褐色土 少量のローム粒・ロームブロックが混入する。
- 6 黒褐色土 多量のローム粒とロームブロックが混入する。
- 7 暗褐色土 小礫の混入がやや多く、色调がやや明るい。
- 8 黄褐色土 ロームと黒褐色土の混土层。
- 8' 黄褐色土 くすんだローム土を主体に黒色土が混じる。



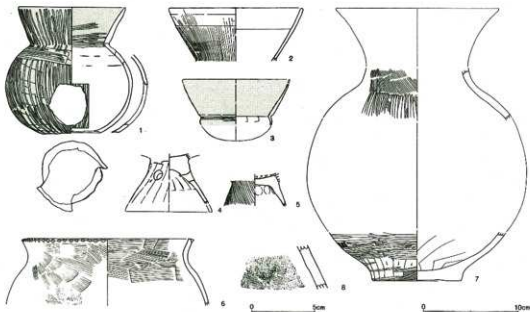
第32図 B区第8号方形周溝墓

否かは不明である。平面形態は全周型に属し、方台部は概ね長方形を呈するが、東辺を除く各辺は中央部が外側にやや膨らみ気味となっている。方台部上面の規模は東西長11.60m、南北長9.60m、主軸方位はN-18°-Wを示す。

周溝は方台部形態に添うように外縁部中央が外に張り出しており、全体としては隅丸方形に近い形態を採る。深さは北溝が著しく浅く、他の溝は比較的深い。周溝底面は各コーナーが全体に浅く、中心部に向かって船底状に深くなっていた。横断面形は総じて逆台形を呈し、方台部側の壁の立上がりは鋭く、外縁部側がやや緩やかな傾向が認められた。周溝の規模を列挙すると、北溝が幅2.36m、深さ0.32m、東溝が幅2.56m、深さ0.96m、南溝が幅2.52m、深さ0.76m、西溝が幅2.32m、深さ0.84mを測る。

周溝覆土は大きく8層に分かれる。第6層を除くと各層ともロームの混入量が比較的多い。第7層が一次堆積土で、堆積状態から方台部盛土の崩落土を主体とした模様である。堆積状態は自然堆積と思われ、特に溝内埋葬が行われたような形跡は認められなかった。

出土遺物は少なく、南溝と西溝に偏在する。器種としては小形埴と埴類、壺、高坏、台付甕がある。第33図1はやや小形の埴で、胴部と底部に孔が空いている。焼成後、故意に穿孔された可能性がある。3はいわゆる小形丸底埴である。風化により調整は不明瞭であるがヘラミガキと赤彩痕が僅かに残されていた。4は高坏脚部片で端部を欠いている。短脚で内穹気味に開くものと考えられる。6は台付甕と思われる。口唇部に刷毛目原体を使用した刻み目が施され、内外面ともに刷毛目調整されている。7は壺。口縁部と胴部中位を欠失しているが胎土、調整などから同一個体と思われる。外面は刷毛目調整後ヘラミガキ、胴部下端はヘラケズリがみえる。底部は穿孔されない。8は壺の胴部上半と思われ、無区画の細かい縄文が山形、或いは鋸歯状に施文される。縄文以外の部分はヘラミガキと赤彩が施されていた。



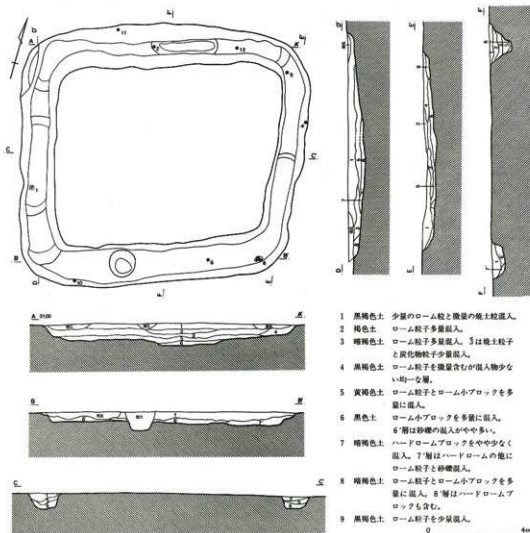
第33図 B区第8号方形周溝墓出土遺物

B区第8号方形周溝墓出土物観察表(第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	埴	11.1	13.3		ABC	A	橙	80%	No2 南溝覆土下層(+6cm) 赤彩
2	埴	(14.0)	5.5		ABC	A	橙	25%	南溝覆土 胴部欠失
3	小形埴		4.3		ABC	B	橙	40%	南溝覆土 赤彩 整形不明瞭
4	高 埴		5.2		ABC	A	橙	60%	No1 南溝覆土(+40cm) 透孔は3ヶ
5	台付甕		3.2		ACJ	B	橙	35%	東溝覆土
6	甕	(17.0)	7.0		ABC	A	暗褐	15%	西溝覆土
7	壺			9.3	ABCE	A	にょい	75%	No3,4,6 西溝覆土(+20cm)
8	壺				AC	A	橙		西溝覆土 無区画縄文帯 赤彩

B区第9号方形周溝墓(第34図)

B・C・8・9区に位置し、第8号、第10号周溝墓の間に構築されていた。両周溝墓とは約1.2m隔



第34図 B区第9号方形周溝墓

たり直接の切り合い関係はない。しかし、8号及び10号周溝墓は主軸をやや異にしているにも拘わらず、本周溝墓の西溝と東溝はそれぞれの周溝に規制されたかのように平行しており結果的に形態は歪んでいる。特に東溝は第10号周溝墓を避けているようにもみえ、遺構から見る限り本住居の方が新しい可能性がある。周溝上は第51号住居跡と耕作による擾乱土が乗っており、また南溝は井戸状の土壌に擾乱されていた。形態は全周型に属し、方台部は前述したように東辺が歪み、台形状を呈する。各辺は比較的直線的で、コーナーは丸みを帯びる。方台部上面の規模は東西長9.44m(北辺)、南北長7.40m、主軸方位はN-17°-Wを示す。

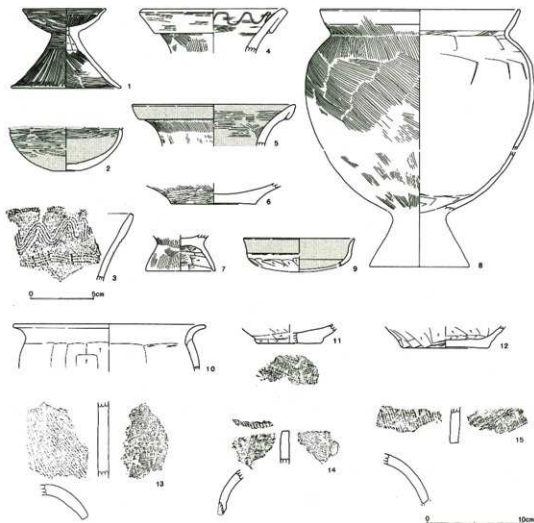
周溝は全体に幅狭で、外縁部は大きく張り出す部分は見られず概ね直線的といえる。底面は小さな凹凸が顕著で、北溝と西溝は中央部が長楕円の土壌状に窪んでいた。深度は北溝が深く、東溝と南溝がやや浅い。断面形は基本的に逆台形を呈し、総じて方台部側の壁の方が外縁部に比して立上がり角度は急である。周溝の規模は北溝が幅1.92m、深さ0.96m、東溝が幅1.24m、深さ0.56m、南溝が幅1.80m、深さ0.60m、西溝が幅1.80m、深さ0.72mを測る。

周溝覆土は大きく9層に分かれる。基本的には第5～8層が方台部盛土に由来する堆積土と考えられる。但し第7層は南溝の堆積状態から外縁部からの流入土、または壁の崩落土であろう。

出土遺物は少なく、壺、小形鉢、小形器台、台付甕が検出された。出土位置は各溝にわたっており、特定箇所に纏まる様子は見られない。第35図1は小形器台で西溝の覆土下層から出土。2は鉢か。底面は僅かに凹む。3は櫛歯文系の甕で、4本単位の櫛歯状工具によって口縁直下から波状文、等間隔止の簾状文、斜行文が施され、口唇部には縄文が巡る。施文順位は簾状文を斜行文が切っている。胎土に白色針状物質が少量含まれ在地で生産されたものと考えられる。弥生時代の混入品と思われる。4は折り返し口縁の壺で、口縁部内面にへら状工具により波状文が施される。7は台付甕脚部で非常に小形である。8は台付甕で、胴部上位に最大径をもつ。口縁部は刷毛目後、上半をヨコナデされる。9～15は後世の混入品。13～15は小形の丸瓦で凸面は平行明き、凹面は布目、15は布目をなで消す。14は狭端面にも平行明きが施される。

B区第9号方形周溝墓出土遺物観察表(第35図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形器台	8.5	8.4	11.1	ACH	A	橙	85%	No15 西溝覆土下層(+15cm) 赤彩
2	鉢		4.5		AC	A	橙	25%	No11 北溝覆土(+18cm) 赤彩
3	甕				AC	B	褐	10%	西溝覆土 櫛歯文系土器
4	壺	(14.8)	4.6		ABC	A	橙	20%	No2 東溝肩部覆土(+25cm) 無彩
5	壺	(17.0)	4.4		AJ	A	橙	35%	No14 東溝覆土(+25cm) 赤彩
6	壺		2.2	(9.2)	ABC	A	淡黄橙	55%	No5 南溝墳底
7	台付甕		3.8	3.6	ABCJ	A	にぶ黄	50%	南溝覆土
8	台付甕	(20.8)	21.1		AC	A	にぶ黄	20%	No3 南溝覆土(+33cm)
9	坏	(11.6)	3.0		AC	A	橙	20%	西溝覆土 赤彩
10	甕	(19.8)	4.8		ABCF	B	橙	20%	No7 南溝覆土(+13cm)
11	甕	(19.8)	4.8		ABCF	A	橙	45%	No8 北溝覆土(+22cm)
12	壺		2.3	9.0	ABJ	A	にぶ黄	70%	No12 北溝覆土(+34cm)
13	丸瓦				ABC	A	淡黄		南溝覆土
14	丸瓦				ABC	B	灰白		南溝覆土
15	丸瓦				ABC	A	淡黄橙		北溝覆土



第35図 B区第9号方形周溝墓出土遺物

B区第10号方形周溝墓(第36図)

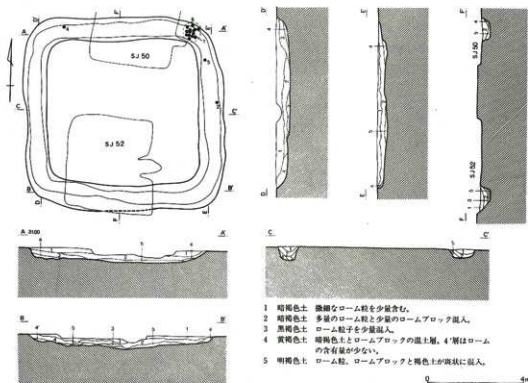
調査区中央からやや東に寄ったB・C-10区に位置する。西側に第9号周溝墓が近接し、東側から南にかけては集落域となっている。上面は第50～52号住居跡により攪乱され、遺存状態はあまり良くない。形態は周溝が全周するタイプで、方台部はほぼ方形を呈する。方台部の規模は東西長6.40m、南北長6.00mと南北が僅かに長く、規模としては小形の部類に入る。各コーナーは丸みを持ち、南辺は僅かに外側に張り出していた。主軸方位はN-7°-Wを示す。

周溝はほぼ一定の幅で巡り、外縁部の膨らみも目立たない。底面は小さい凹凸が顕著であるが全体的には比較的平坦である。断面形は逆台形を呈し、総じて方台部側の方が壁の立上がり角度は急である。周溝の規模は北溝が幅1.04m、深さ0.46m、東溝が幅1.12m、深さ0.42m、南溝が幅1.20m、深さ0.53m、西溝が幅1.00m、深さ0.60mを測る。

周溝覆土は大きく5層に分かれる。第1層と3層を除くと全体にロームの混入が多く、第5層は

堆積状況から、方台部盛土の崩落土を主要な堆積要因として形成されたものと推定される。重複住居は第1層を切って構築されていたことから、遅くとも9世紀後半までには周溝は完全に埋没し、且つ盛土も失われていたものと考えられる。

出土遺物は少ない。壺、台付甕、高坏、小形鉢が検出された。第37図1は小形の鉢で、口縁付近は刷毛目後ナデ、体部下半はヘラケズリ調整される。2の高坏は口唇部に平坦な面をもつ。坏部外面はヘラナデ後丁寧なナデ調整される。脚部は欠失する。3は台付甕で口径はかなり大きくなる。口縁部は「く」の字に屈曲する。風化が著しく刷毛目は不明瞭。5は高坏脚部片である。低脚で端部を欠き裾部は内穹気味に開く。透穴は3孔穿たれている。6の壺は北東コーナーの外部から流入したような状態で出土した。外面刷毛目後ヘラミガキ、内面は木口ナデ、内面の接合面にも木口状工具痕がみえる。

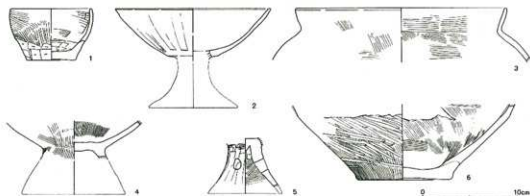


- 1 暗褐色土 微細なローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 多量のローム粒と少量のロームブロック混入。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量混入。
- 4 黄褐色土 暗褐色土とロームブロックの混入層。4'層はロームの含有量が少ない。
- 5 明褐色土 ローム粒、ロームブロックと褐色土が混在し混入。

第36図 B区第10号方形周溝墓

B区第10号方形周溝墓出土遺物観察表(第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	鉢	(8.4)	5.4	5.2	ABC	A	いぶき	25%	No43 北溝覆土(+10cm)
2	高坏	(18.3)	5.4		AC	A	橙	20%	No37 東溝覆土(+10cm)
3	甕	(22.0)	5.7		A E F J	C	橙	80%	西溝覆土 全体に風化し整形不明瞭
4	台付甕		4.1		ABC J	B	橙	40%	No25 北溝覆土下層(+6cm)
5	高坏		5.0		ABC	A	橙	80%	No30 東溝墳底 3方達し
6	壺		7.8	9.7	AH	A	橙	35%	No4~13他 北溝覆土(+5~20cm)

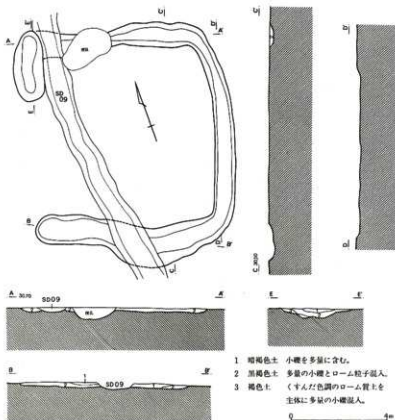


第37図 B区第10号方形周溝墓出土遺物

B区第11号方形周溝墓(第38図)

調査区東端のC-13・14区に位置する。台地肩部に立地し、東側はC区との境をなす谷状地形に移行する。北西側に2.5m程離れた位置には第12号周溝墓が構築されていた。周溝及び方台部は第9号溝跡及び時期不明の土壌によって攪乱され、また深度が極めて浅いために遺存状態はかなり悪い。

平面形態は西溝が途中で途切れる一隅切れタイプではあるが、陸橋部は幅広く一辺が切れるタイプ



第38図 B区第11号方形周溝墓

により近いといえる。方台部は不整形を呈し、各辺はかなり歪みをもつ。方台部の規模は東西長6.80m、南北長7.56m、主軸方位は凡そN-20°-Eを示し、周溝墓群中、最も東寄りに軸が振れていた。

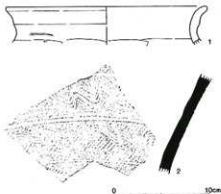
周溝は西溝を除くと全体に掘り込みが浅く、南溝は蛇行したような様相が窺われる等、一定しない。北溝から西溝にかけては、幅0.65m~1.60mと溝幅は一定しない。深さも10~20cmほどと極めて浅い。

- 1 暗褐色土 小礫を多量に含む。
- 2 黒褐色土 多量の小礫とローム粒子混入。
- 3 褐色土 くすんだ色調のローム質土を主体に多量の小礫混入。

底面は基底部の礫層の影響もあり全体に細かい凹凸が顕著で側壁の立上がりも総じて緩やかである。西溝は長さ2.96mの楕円形を呈し、深さは45cmと他の溝に比して深い。底面は中央が深くなり、横断面形は逆台形に近い形態となる。

周溝覆土は3層に分かれるが、全体に礫が多量に含まれ、大きな土層変化とはいえない。

出土遺物は南溝覆土から壺の胴部片が検出されたに留まり、図示した土師器壺(第39図1)と須恵器甕(2)は混入遺物である。



第39図 B区第11号方形周溝墓出土遺物

B区第11号方形周溝墓出土遺物観察表(第39図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	壺	(21.0)	4.0		ABCJ	B	にひ・黄	20%	南溝覆土
2	甕				ABC	B	灰		南溝覆土 外面波状文

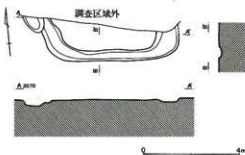
B区第12号方形周溝墓(第40図)

調査区北東部のB-13区に位置する。調査区外に延びるため、南溝から左右のコーナー部が検出されたのみで遺構の形態、規模は不明である。主軸方位も概ね北を指向しているが基準ラインが得られない。

南溝は中央部で幅40cmと非常に幅狭で、東側コーナーはやや幅広となり鋭く屈曲する。西側コーナーのカーブは緩やかで外に大きく

開き、ビットの攪乱を受けていた。底面はほぼ平坦で土壌状の掘り込みは認められなかった。覆土はローム粒子を多量に含む暗褐色土と、くすんだ色調のローム質土を主体とする黄褐色土に分かれるが、両層ともに小礫がやや多く混入し大きな相違は見られなかった。

図化可能な遺物はない。



第40図 B区第12号方形周溝墓

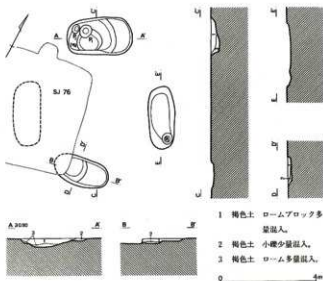
B区第13号方形周溝墓(第41図)

調査区東寄りのC・D-12・13区に位置し、第76号住居跡と3本のビットの攪乱を受けていた。台地奥部に単独で立地し、最も近接する第11号周溝墓とは約6.5m隔たっている。平面形態は、重複住居により南溝の一部と西溝に相当する部分が削平されているため確定できないが、おそらく四隅切れと考えてよいであろう。方台部の形態は南辺が南東方向に向かって開いているため、台形となる可能性が高い。方台部の規模は東西の残存長3.20m、南北長は最短部で4.16mを測る。何れにしても規模としては最も小形の範疇に入るものと考えられる。主軸方位はN-15°-Wを示す。

周溝は北溝が最も深く、東溝と西溝は非常に浅い。西溝についても重複住居の床面下に遺存する

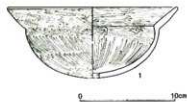
部分が検出されなかったことから見て、同様に深度が浅かったものと思われる。周溝断面形は基本的には逆台形で、方台部側の側壁の方が急角度で立上がる傾向にある。周溝の規模は、北溝は長さ2.76m、幅1.60m、深さ0.40mで、底面は西半に向かって深くなる。東溝は長さ2.60m、幅2.80m、深さ0.20m、底面は小さな凹凸が顕著であるが全体的には平坦である。南溝は残存長1.72m、幅1.20m、底面は西半に向かって若干深くなっていた。覆土は3層に分かれ、ロームと小礫混じりの褐色土を基調としていた。堆積環境の詳細は遺存状況が悪く判然としない。

出土遺物は丸底の鉢が1点、北溝の底面から8cm浮いた位置から出土したのみである。



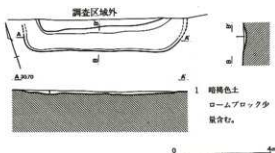
第41図 B区第13号方形周溝墓-出土遺物

第41図1は有段口縁の鉢で底部は丸底となる。口径17.6cm、器高7.4cm。胎土に石英、白色粒子、白色針状物質を含む。焼成は良好で、色調は橙色。約40%が残存する。調整は全面ヘラミガキで一部ヘラケズリ痕が残る。赤彩は施されない。註記No1。



B区第14号方形周溝墓(第42図)

調査区北東部のB-12区に位置する。南溝と左右のコーナー部が僅かに検出されたが、大半は調査区外にあるため形態や規模等の詳細は不明である。西側コーナー部内壁がカーブしていることから見ると、平面形態は少なくとも四隅切れとはならないであろう。主軸方位は南溝に直交するものと仮定するとN-10°-Eを示す。



第42図 B区第14号方形周溝墓

南溝は幅0.80m~1.30mを測り東に向かってやや幅が広がる。深さは10cm程と極めて浅く、コーナー部の周溝外縁は削平されており、外縁部のカーブは不明瞭である。周溝底面はほぼ平坦である。

覆土はロームブロックを含む暗褐色土単層で構成され、大きな土層変化は観察されなかった。

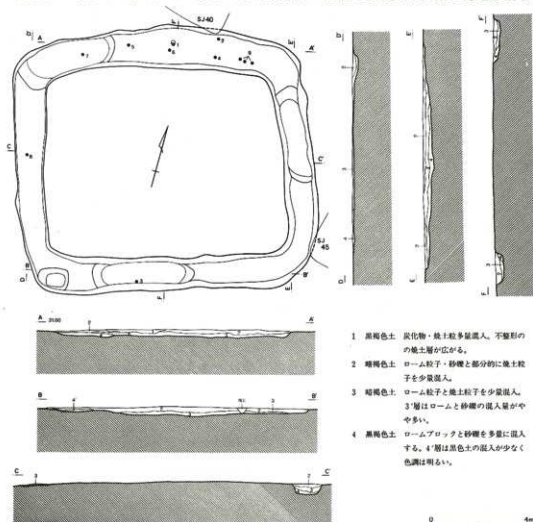
出土遺物は全く検出されなかった。

B区第15号方形周溝墓(第43図)

調査区中央部のD・E-7・8区に位置し、北側に8号周溝墓、西側に4号周溝墓が近接して構築されていた。墓域としては南端部にあたり東南側は古代の集落域となる。周溝上部は第40・45号住居跡により一部攪乱されている。平面形態は全周型に属し、方台部は東西に長軸をもつ台形を呈する。各辺は膨らみ気味で、コーナーは丸みをもつ。方台部の規模は東西長10.16m、南北長8.04m、主軸方位はN-15°-Wを示す。

周溝はほぼ一定の幅で巡り、外縁部は比較的直線的である。周溝底面は概ね平坦で部分的に船底状にやや深く掘り込まれていた。深度は全体に浅く、特に西溝は深さ10cmに満たなかった。断面形は逆台形をなし、外縁部側の壁も比較的急角度で立上がる。周溝の規模は北溝が幅1.84m、深さ0.30m、東溝が幅1.32m、深さ0.45m、南溝が幅1.44m、深さ0.45m、西溝が幅1.32m、深さ0.08mを測る。

周溝覆土は大きく4層に分かれる。第1層は古代以降の堆積土と推定され、焼土が多量に含まれ

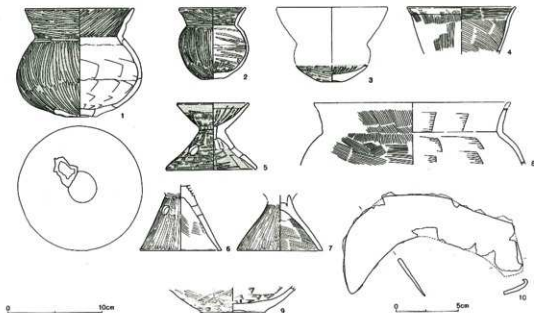


第43図 B区第15号方形周溝墓

ていた。下層に向かうにしたがって砂礫とロームの混入量が増える傾向にある。第4層は堆積状態と包含物から方台部盛土に由来する堆積層と推定される。

出土遺物は小形の埴類、小形器台、高環、壺、台付甕、鉄鎌が検出された。第44図1・2・4～7・9は北溝の底面、または覆土下層から出土した。他の周溝からの出土遺物は少ない。

第44図1は小形の壺(埴)で口縁部中位に弱い段をもつ。底部は小さく上げ底を呈する。口縁部及び胴部外面はヘラミガキ調整され、頸部に一部刷毛目を残す。胴部下端から底部にかけて焼成後の穿孔が施されている。2は小形の埴で外面は刷毛目後のヘラミガキ、胴部内面にも粗いミガキが加えられている。3は小形埴の底部と推定される。底部は小さく上げ底状となる。南溝底面出土。4は埴か。器種は不明確である。口縁は刷毛目後ヨコナデ。5は小形器台で外面は刷毛目後ミガキ、受部下端にはケズリ痕が残る。口縁部はヨコナデが加わる。6・7は小形の高環脚部。9の壺は底部が輪台状を呈する。10の鉄鎌は基部に折り返しをもち、刃部は幅広で湾曲する。混入である。



第44図 B区第15号方形周溝墓出土遺物

B区第15号方形周溝墓出土遺物観察表(第44図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	小形壺	11.3	11.4	3.2	ABC	A	浅黄橙	95%	No38 北溝墳底 赤彩
2	小形埴	7.0	7.5	2.3	AC	A	橙	80%	No40 北溝墳底 赤彩 胴部下半黒斑
3	小形埴		1.7	2.2	AB	A	橙	60%	No42 南溝墳底 残存部全面赤彩
4	埴?	(11.3)	5.0		AC	A	にぶい	30%	No11 北溝覆土(+16cm)
5	小形器台	7.5	7.0	9.1	ABCE	A	浅黄橙	95%	No37 北溝覆土下層(+3cm)
6	高環		6.8	8.5	ABC	A	橙	80%	No39 北溝覆土下層(+5cm) 無彩
7	高環		5.8	8.9	ABC	B	にぶい	25%	No16 北溝覆土(+11cm) 無彩
8	壺		5.9		ABC	B	橙	15%	No43 西溝墳底
9	甕		2.7	6.8	ABCJ	A	にぶい	70%	No22他 北溝覆土(+17cm)
10	鉄鎌								覆土 全長14.0, 幅3.9cm 重量54g

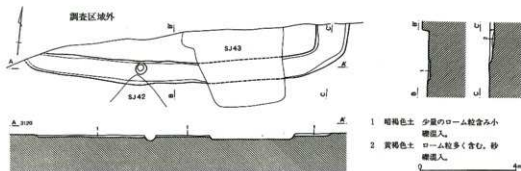
B区第16号方形周溝墓(第45図)

調査区中央部北端のB-8・9区に位置する。南周溝と東周溝の一部が検出されたのみで大半は調査区外にある。また、第43号住居跡の攪乱を受け遺存状態は極めて悪い。平面形態は全周型の可能性が高いが、現状では不明である。主軸方位はN-5°-Wを示す。

周溝は幅0.76m-1.36mと狭く、深さは南溝では10cm以下、南溝でも20cmと極めて浅い。底面はほぼ平坦で、東コーナー付近が若干深く掘り込まれていた。

覆土は2層に分かれ、ローム粒子と砂礫が混じるが堆積状況は不明とせざるを得ない。

遺物は検出されなかった。



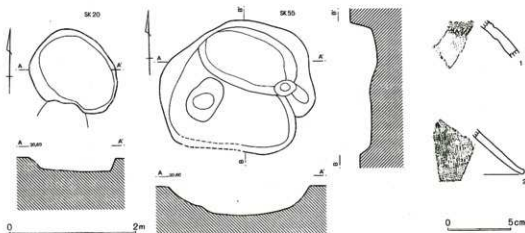
第45図 B区第16号方形周溝墓

(3) 土壌

該期の土壌は2基検出されたに留まる。

B区第20号土壌(第46図)

調査区中央部のD-9区に位置し、第45号住居跡のカマドに一部が切られていた。形態は楕円形で、規模は長径1.44m、深さ0.20mを測る。底面はほぼ平坦である。出土遺物は甕底部片が出土したのみである。



第46図 B区第20・55号土壌・出土遺物

B区第55号土壙(第46図)

調査区南東部のE-12区に位置し、第78号住居跡に切られていた。形態は不整形を呈し、規模は長径2.40m、深さ0.44mを測る。底面は一定せず土壙状に凹む部分とピット状に掘り込まれる部分がある。

出土遺物は壺と高坏片がある。第46図1は壺肩部片と思われ、現状で3条からなる撚縮平行文の下に列点文が5個巡る。外面ミガキ、内面指ナデ調整。東海系の文様構成をとるが胎土に白色針状物質を含む。2は高坏脚部か。外面刷毛目後、ヘラミガキ調整が施される。

B区第55号土壙出土遺物観察表(第46図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	地色	調	残存	出土位置・その他
1	壺				ABC	A	浅黄橙		S K55覆土 在地産
2	高坏				ABC	A	灰褐		S K55覆土

3 古墳時代後期～平安時代の遺構と遺物

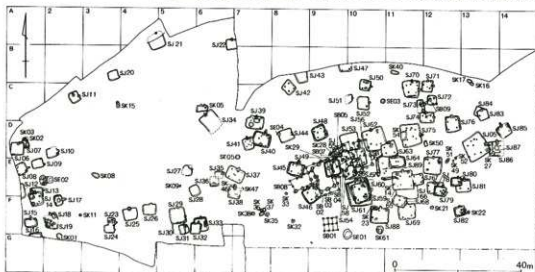
(1) 住居跡

B区第5号住居跡(第48・49図)

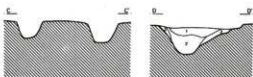
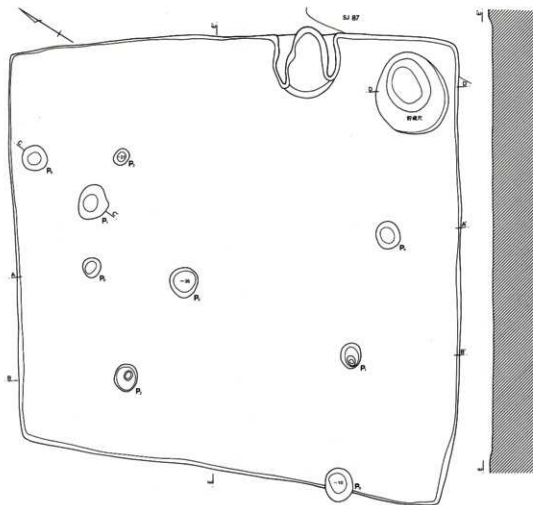
B区東端のD-13区に位置する。第87号住居跡と一部重複するが、本住居跡の方が古い。形態は方形を呈するが一辺が大きくゆがむ。比較的大型の住居跡で規模は長軸6.706m、短軸6.86mを測る。深さは最も残りの良い部分でも10cm以下と全体に非常に浅い。主軸方位はN-55°-Eを示す。

床面は地形に沿って東側に若干低くなっていた。覆土の堆積状態は明らかにできない。

カマドは北東壁の中央から東側に寄った位置に設置される。燃焼部奥壁は10cm程壁を掘り込んでいるが、燃焼部自体は住居内に納まる。底面は床面を約5cm皿状に掘り凹め、袖部は灰白色の粘土を積み上げて構築されている(第VIII層)。覆土は第II層が不自然であるが、天井部崩落土と袖流出土



第47図 B区古墳時代後期～平安時代の遺構配置図

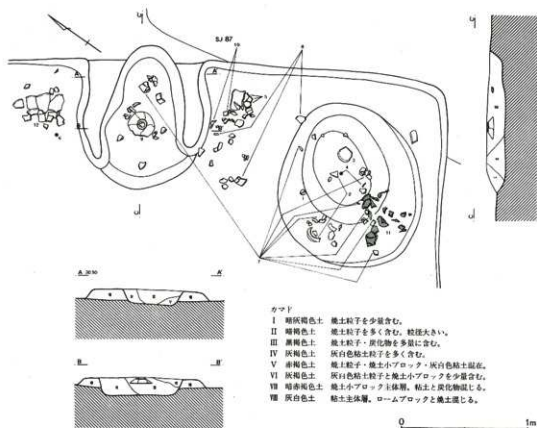


貯蔵穴

- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒子を少量含む。小礫の混入多い。
- 2 黒褐色土 少量の焼土粒・ローム粒子・微量の炭化物含む。
- 3 暗灰褐色土 ローム主体に暗褐色土を部分的に斑状に含む。

0 2m

第48図 B区第5号住居跡



第49図 B区第5号住居跡カマド

を主体に構成される。また、燃焼部はほぼ中央の第Ⅲ層中には脚部を欠失した高環が伏せた状態で遺存していた。高環を転用した支脚の可能性のあるものの土器外面には被熱した痕跡は明瞭には残されていなかった。若し、転用支脚であるならば火床面は第Ⅲ層中に求められよう。

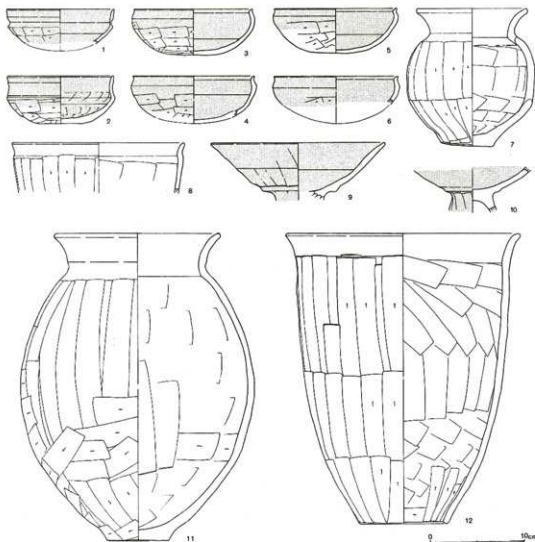
貯蔵穴はカマド東脇のコーナー部に設けられる。形態は楕円形を呈し、規模は長径1.32m、短径1.12m、深さ42cmを測る。

ピットは9本検出された。4本主柱穴とした場合、 $P_1 \sim P_3$ は主柱穴と考えて問題ないが、 P_4 を採ると柱穴配置が大きく歪んでしまう。 $P_5 \sim P_9$ に関しては住居に伴わないものと推定される。

出土遺物は土師器環、高環、甕、小形甕、甌、鉢がある。出土遺物はカマドと貯蔵穴周辺に集中していた。壁高が浅いことを考慮すると遺物の大半は住居に伴う可能性の高いものと判断される。

出土状況を見ると第50図1～4の環と11の甕は貯蔵穴内、7の小形甕は貯蔵穴内を主としてカマド内の遺物と接合した。9の高環は前述したように支脚に転用された可能性を有し、カマド底面から数cm浮いた位置から出土した。また12の甌はカマド横に潰れた状態で検出された。

環は模倣環(1・2)と、比企型環(3～6)の2種類に分かれる。何れも赤彩され、4は不明確であるが、他は胎土に白色針状物質を含むことから在地産と考えられる。2は平底、3・5も平底風を呈する。7の小形甕は外面二次火熱を受け赤変し、器壁の一部が剥落している。出土土器は6世紀前半代に位置付けられよう。



第50図 B区第5号住居跡出土遺物

B区第5号住居跡出土遺物観察表(第50図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置・その他
1	坏	(11.2)	3.6		ABC	A	にぶい	15%	No.81 貯穴内(-15cm) 赤彩
2	坏	11.0	5.0		ABC	A	橙	100%	No.79,84 貯穴内(-38cm) 赤彩
3	坏	(12.4)	4.8		ABC	A	橙	45%	No.74 貯穴内(-33cm) 赤彩
4	坏	(12.8)	4.3		AB	A	にぶい	25%	No.76,79 貯穴内(-38cm) 赤彩
5	坏	(12.8)	4.7		ABC	A	にぶい	35%	No.24 覆土(+4cm) 赤彩
6	坏	(13.0)	3.0		ABC	A	にぶい	10%	No.117 床面 赤彩
7	小形甕	11.4	14.4	5.6	ABC	A	にぶい	80%	No.54,70他 覆土(-6~+18cm)
8	鉢?	(18.0)	5.3		ABC	A	橙	25%	No.43,47,48 覆土(+2~6cm)
9	高坏	18.0	6.0		ABCE	A	橙	95%	No.64 竈内(+9cm) 赤彩
10	高坏		4.7		ABC	A	にぶい	30%	No.35,44 床面(0~+3cm) 赤彩
11	甕	(17.0)	32.2	6.6	ABC	A	にぶい	40%	No.100 貯穴内(-4cm)
12	甕	24.3	30.4		ABC	A	にぶい	55%	No.1,3他 覆土(0~+7cm)